

2019年度 グローバル人材育成プログラム 開講科目一覧

科目名	担当教員	開講場所	開講期	曜日	時限	教室	単位数	配当年次	備考
留学理解講座	天木勇樹	和泉／中野	春学期	火	4	M518/305	2	1～4	和泉キャンパスで実施する授業を中野キャンパスへ配信します。(メディア授業(遠隔授業))
日本社会・文化理解講座	天木勇樹	和泉／中野	秋学期	火	4	M518/307	2	1～4	和泉キャンパスで実施する授業を中野キャンパスへ配信します。(メディア授業(遠隔授業))
海外文化・専門集中講座 (スタンフォード大学 American Language and Culture: Silicon Valley)	エルウッド, ジェームズ	アメリカ	夏期集中			—	2	1～4	
海外文化・専門集中講座 (ペンシルベニア大学 The Persuasive Strategies for Entrepreneurship Program)	エルウッド, ジェームズ	アメリカ	夏期集中			—	2	1～4	
海外文化・専門集中講座 (ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジ異文化理解プログラム)	エルウッド, ジェームズ	イギリス	夏期集中			—	2	1～4	
海外文化・専門集中講座 (カリフォルニア大学デービス校 Communication and Culture)	天木勇樹	アメリカ	秋学期集中			—	2	1～4	
海外文化・専門集中講座 (カリフォルニア大学デービス校 English for Science and Technology)	天木勇樹	アメリカ	秋学期集中			—	2	1～4	
海外文化・専門集中講座 (カリフォルニア大学デービス校 English for Global Business)	天木勇樹	アメリカ	秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(英語) (ワシントン大学)	天木勇樹	アメリカ	秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(英語) (アデレード大学)	水倉亮	オーストラリア	秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(英語) (ユーコン・カレッジ)	天木勇樹	カナダ	秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(英語) (ブリティッシュ・コロンビア大学)	天木勇樹	カナダ	秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(英語) (ビクトリア大学)	天木勇樹	カナダ	秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(英語) (モナシュ大学)	水倉亮	オーストラリア	秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(英語) (オークランド大学)	水倉亮	ニュージーランド	秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(英語) (エンデラン大学 3週間)	横川綾子	フィリピン	夏期・秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(英語) (エンデラン大学 6週間)	横川綾子	フィリピン	夏期・秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(英語) (ペンシルベニア大学ELP)	横川綾子	日本国内	秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(ドイツ語) (ウィーン大学)	天木勇樹	オーストリア	夏期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(フランス語) (リヨンカトリック大学)	天木勇樹	フランス	夏期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(スペイン語) (バルセロナ自治大学)	水倉亮	スペイン	秋学期集中			—	2	1～4	
海外語学研修講座(中国語) (北京大学)	水倉亮	中国	秋学期集中			—	2	1～4	
短期海外実習 (アメリカ・インターンシップ)	天木勇樹	アメリカ	夏期集中			—	1	1～4	
短期海外実習 (アメリカ・Exploring Social Innovation)	水倉亮	アメリカ	秋学期集中			—	1	1～4	
短期海外実習 (ベトナム・インターンシップ)	(夏期集中) 天木勇樹 (秋学期集中) 水倉亮	ベトナム	夏期・秋学期集中			—	1	1～4	
海外実習 (オーストラリア・インターンシップ)	天木勇樹	オーストラリア	夏期集中			—	2	1～4	
長期海外実習 (国連ユースボランティア・プログラム)	天木勇樹	その他	秋学期			—	8	2～4	長期海外実習, 海外実習課題研究は同時に履修することが条件となる。 また, 履修する場合, 当該学期に他の科目を履修することはできない。
海外実習課題研究 (国連ユースボランティア・プログラム)	天木勇樹	その他	秋学期			—	4	2～4	

※入学した年度によって一部科目名称が異なります。詳細はGLOBAL NAVI 2019 (20ページ)を確認してください。

※上記以外に単位認定科目を設置しています。国際教育センターが指定する海外大学との留学プログラムや海外インターンシップ, フィールドワークを単位認定します。詳細は講義計画(授業シラバス)を確認してください。

※履修方法はGLOBAL NAVI 2019 (17ページ)を確認してください。

※実施されるプログラムは変更となる可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
留学理解講座	1～4年	春学期	2単位	和泉	天木 勇樹
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<<概要 (Course Summary) >> 本講座では、国際的に活躍する講演者たちが自身の留学体験や海外での勤務経験をもとに、留学の意義や留学が自身の人生にもたらした変化などについて講演し、受講者は講演者の経験した実例をもとに、受講者の留学に対する意識を高めていくことを目的としている。さらに、カルチャーショックや逆カルチャーショックなど、留学体験から派生する課題について議論し、異文化適応能力の意義についても学んでいく。 <<到達目標 (Course Objectives) >> 学生は本講座を通じて、海外留学に対する明確な目的や目標を持つことの重要性を認識し、海外に目を向け、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流や海外生活での学びに強い意欲を持つとともに、短期留学や長期留学等の海外留学に挑戦する人材として必要になる素養を身に付けることを到達目標とする。					
2 授業内容 (Course Contents)					
1.	4/16	イントロダクション 海外留学の意義	天木 勇樹		
2.	4/23	English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師 兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)		
3.	5/7	グローバルに活躍するための「伝える極意」	長井 鞠子 (会議通訳者/株式会社 サイマル・インターナショナル顧問)		
4.	5/14	世界を知ろう！英文報道の現場から見えること	大門 小百合 (株式会社 ジャパンタイムズ執行役員)		
5.	5/21	私の留学体験～異文化での学び～	中村 八千代 (特定非営利活動法人 ユニカセ・ジャパン理事長)		
6.	5/28	バカヤンキーでも死ぬ気でやれば世界の名門大学で戦える	鈴木 琢也 (株式会社 グロービス/学校法人グロービス経営大学院スチューデントオフィスアソシエイト)		
7.	6/4	パリの国連で夢を食う	川内 有緒 (ノンフィクション作家)		
8.	6/11	Discover Who You Are ～外からの自分、内なる自分～	ケリー 隆介 (ラジオパーソナリティ、ナレーター、MC、英語通訳)		
9.	6/18	世界 50 カ国以上への訪問が教えてくれた留学の価値	大村 貴康 (一般社団法人 日本国際化推進協会代表理事)		
10.	6/25	信じる！伝える！実現する！	齋藤 佳子 (一般社団法人 プロフェッショナルチアリーディング協会代表理事)		
11.	7/2	世界一周でしか出会えなかった僕の使命	伊藤 啓二 (株式会社 Selan 取締役)		
12.	7/9	世界から国際 NGO へ	吉岡 利代 (国際人権 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ上級プログラムオフィサー)		

13.	7/16	グローバル社会の中で、自分をどのように磨けばよいか？新時代は英語力ではなく発信力で勝ち抜く！	ジャーマン・ルース・マリー (株式会社 ジャーマン・インターナショナル代表取締役)		
14.	7/23	次世代マインド Global Citizenship & 未来づくり Workshop	辰野 まどか (一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト代表理事)		
※各回終了時に科目担当教員が講義内容の振り返りを行います。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)					
必修ではないが、本講座とあわせて、「日本社会・文化理解講座」(秋学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。 教科書は特に定めないが、参考書を読むことを推奨する。					
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)					
事前に、次週のゲスト講師の著書等を読み、予備知識を得ておくこと。また、各回授業の復習として、講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。					
5 教科書 (Textbook)					
特に定めない。					
6 参考書 (Reference)					
『伝える極意』長井鞠子 著 (集英社)					
『The Japan Times 報道デスク発グローバル社会を生きる女性のための情報力』大門小百合 著 (ジャパントイムズ)					
『ハーバードで語られる世界戦略』田中宇・大門小百合 著 (光文社)					
『バカヤンキーでも死ぬ気でやれば世界の名門大学で戦える。』鈴木琢也 著 (ポプラ社)					
『自分を動かし続ける力～元ヤンだった僕がカリフォルニア大学バークレー校で身につけた「最大限に成長する」習慣』鈴木琢也 著 (大和書房)					
『パリの国連で夢を食う。』川内有緒 著 (イースト・プレス)					
『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著 (宝島社)					
『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)					
『日本人が世界に誇れる 33 のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)					
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)					
以下の諸点により、最終評価を行う。					
(1) 授業における貢献度：40%					
※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。					
(2) リアクションペーパー：30%					
※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。					
(3) 期末レポート：30%					
※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。					
8 その他 (Other)					
他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出することがないように注意すること。 また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。					

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
日本社会・文化理解講座	1～4年	秋学期	2単位	和泉	天木 勇樹
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>海外留学に際し、改めて広く日本について考え、理解するための講座である。日本のことを英語や留学先の言語で上手く説明できないことは、語学力の問題だけではなく、日本文化や日本社会についてきちんと理解していないことが原因の場合もある。本講座では、国内外で活躍する講演者たちが自身の専門分野をもとに、日本文化や日本事情について講演し、受講者の日本の社会や文化に関する知識を深めていくことを目的としている。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>本講座では、文化のみではなく、文学、宗教、政治、経済等の様々なテーマについて扱い、日本について海外に発信できるための知識を得ることを目指す。</p>					
2 授業内容 (Course Contents)					
1.	9/24	イントロダクション 日本社会・文化を学ぶ意義	天木 勇樹		
2.	10/1	英語で説明するニッポン (1) ～まずは小さなおもてなしから始めよう～	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師 兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)		
3.	10/8	Follow Your Passion (Part 1)	松田 悠介 (Crimson Education 日本法人代表取締役社長)		
4.	10/15	日本の教育と他国の教育の違い、道徳観の違い	天野 智之 (株式会社 トゥモロー代表取締役)		
5.	10/29	日本のポップカルチャーの魅力を海外に発信する	吉田 猛 (New People, Inc. 企画開発部ディレクター)		
6.	11/12	日本の強みを異文化で生かす	中村 八千代 (特定非営利活動法人 ユニカセ・ジャパン 理事長)		
7.	11/19	ノンフィクションの力とは何か?	川内 有緒 (ノンフィクション作家)		
8.	11/26	Follow Your Passion (Part 2)	松田 悠介 (Crimson Education 日本法人代表取締役社長)		
9.	12/3	日本文化の魅力について海外の視点から考える	ジャーマン・ルース・マリー (株式会社 ジャーマン・インターナショナル代表取締役)		
10.	12/10	日本の仏教文化と仏教精神について	三浦 尊明 (宗教法人 本寿院 住職)		
11.	12/17	多様な性ってなんだろう? 互いの違いを受け入れあえる社会を目指して	小川 奈津己 (特定非営利活動法人 ReBit 教育事業部マネージャー)		
12.	12/24	英語で説明するニッポン (2) ～まずは小さなおもてなしから始めよう～	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師 兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)		
13.	1/14	日本の食文化について	草野 美保 (公益財団法人 味の素食の文化センター)		
14.	1/21	日本に住む私のアイデンティティについて	辰野 まどか (一般社団法人 グロー		

			バル教育推進プロジェクト代表理事)
※各回終了時に科目担当教員が講義内容の振り返りを行います。			
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)			
必修ではないが、本講座とあわせて、「留学理解講座」(春学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。教科書は特に定めないが、参考書を読むことを推奨する。			
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)			
授業中に配布する資料や参考書に目を通し、予備知識を得ておくこと。また、各回授業の復習として、講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。			
11月19日(火)の講義の予習として、下記(a)～(d)のいずれか1冊を読み、授業に参加すること。			
(a) 『A3 上』『A3 下』森達也 著 (集英社文庫)			
(b) 『空白の五マイル チベット、世界最大のツアンポー峡谷に挑む』角幡唯介 著 (集英社文庫)			
(c) 『空をゆく巨人』川内有緒 著 (集英社)			
(d) 『移民の宴 日本に移り住んだ外国人の不思議な食生活』高野秀行 著 (講談社文庫)			
5 教科書 (Textbook)			
特に定めない。			
6 参考書 (Reference)			
『30秒でできる!ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBC パブリッシング)			
『30秒でできる!ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBC パブリッシング)			
『グーグル、ディズニーよりも働きたい「教室」』松田悠介 著 (ダイヤモンド社)			
『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)			
『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)			
『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)			
『戒名を自分で付けてもいいですか?』三浦尊明 著 (青俄書房)			
『LGBTってなんだろう? からだの性・こころの性・好きになる性』薬師実芳/笹原千奈末/古堂達也/小川奈津己 著 (合同出版)			
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)			
以下の諸点により、最終評価を行う。			
(1) 授業における貢献度: 40%			
※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。			
(2) リアクションペーパー: 30%			
※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。			
(3) 期末レポート: 30%			
※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。			
8 その他 (Other)			
他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出することがないように注意すること。			
また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。			

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者						
海外文化・専門集中講座 (カリフォルニア大学デービス校 Communication and Culture)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	天木 勇樹						
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化間コミュニケーションに関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>参加者は「コミュニケーションと文化」をテーマとした専門授業を受講するほか、言語コミュニケーション能力の向上のための実践的トレーニングを受ける。具体的には、Intercultural Research Project、U.S. Society and Culture、Listening and Pronunciation、Everyday Expression and Idioms の4つの授業を合計80時間受講する。多文化社会である米国の現状と異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。このコースにはカリフォルニア大学デービス校の学生プログラム・アシスタント (PA) が参加しており、週1回のディスカッション・クラスにおいて授業内容や課題についてのフォローを受けることができる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッション・プレゼンテーションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p> <p>参加者は各自が有する英語能力スコアの向上を目指すとともに、米国の文化の多様性について学び、異なる文化を尊重する基本的姿勢を身につける。また、英語圏の高等教育機関において求められる能動的な学習態度・姿勢について理解を深めることを目標とする。プログラム・アシスタント (PA) の配置などにより、現地学生や地域社会との交流活動に参加し、異文化理解を促進する。</p> <p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 (全3回×100分) 2020年2月4日 (火) 13:00～18:20</p> <p>第1回: 本講座全体のイントロダクション。国際的なキャリア形成を目指すうえで海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。</p> <p>第2回: カリフォルニア大学デービス校の歴史やデービスの街について知り、日本との学習環境の相違点や共通点を学ぶ。また、授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行う。</p> <p>第3回: 留学生活における注意点や渡航時の留意事項、現地での安全対策などを理解する。また、最終レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 (カリフォルニア大学デービス校 Communication and Culture)</p> <p>※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <table border="1"> <tr> <td>派遣先教育機関</td> <td>カリフォルニア大学デービス校</td> </tr> <tr> <td>派遣日程</td> <td>2020年2月12日 (水) から2020年3月15日 (日) <予定></td> </tr> <tr> <td>授業内容</td> <td>下記の集中講義を受ける (週20時間)。また、最終日にテストを行う。 ①Intercultural Research Project ②U.S. Society and Culture ③Listening and Pronunciation ④Everyday Expression and Idioms</td> </tr> </table>						派遣先教育機関	カリフォルニア大学デービス校	派遣日程	2020年2月12日 (水) から2020年3月15日 (日) <予定>	授業内容	下記の集中講義を受ける (週20時間)。また、最終日にテストを行う。 ①Intercultural Research Project ②U.S. Society and Culture ③Listening and Pronunciation ④Everyday Expression and Idioms
派遣先教育機関	カリフォルニア大学デービス校										
派遣日程	2020年2月12日 (水) から2020年3月15日 (日) <予定>										
授業内容	下記の集中講義を受ける (週20時間)。また、最終日にテストを行う。 ①Intercultural Research Project ②U.S. Society and Culture ③Listening and Pronunciation ④Everyday Expression and Idioms										

<p>(3) 事後学習 2020年3月17日 (火) 13:00～14:40</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、成果分析の手法を学ぶ。また、帰国時までに各自が最終レポートを提出する。</p>
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員</p> <p>カリフォルニア大学デービス校での3コース合わせて40名。受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することが履修要件。</p> <p>3月卒業予定の学部4年生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約66万円程度 (滞在費、航空運賃、現地交通費を含む) の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。</p> <p>プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/globalprogram/index.html を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。(オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。)</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ)</p> <p>『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジズ)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版)</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度 (10%)</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 最終レポートの評価 (20%)</p> <p>(3) カリフォルニア大学デービス校における評価 (70%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講座における中心的課題の一つに、自らの海外学習の成果を分析し、キャリア形成のために自分の強みと今後の課題を把握することがある。この目的のために、学習体験の記録をとるなどし、自己の学びの分析に役立ててもらいたい。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外文化・専門集中講座 (カリフォルニア大学デービス校 English for Science and Technology)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	天木 勇樹

1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

《概要 (Course Summary)》

事前学習において、異文化理解・異文化間コミュニケーションに関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。

参加者は理工系英語に特化した専門授業を受講するほか、実践的コミュニケーション能力の向上のためのトレーニングを受ける。具体的には、Hot Topics in Science and Technology、Intercultural Research Project、Listening and Pronunciation、Introduction to Entrepreneurshipの4つの授業を受講する。また、アメリカ最先端の科学技術分野の現状を学ぶため、実際にカリフォルニア州にある企業や研究所を訪問する。米国における科学技術の現状とビジネス社会への展開事例を学ぶとともに、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。このコースにはカリフォルニア大学デービス校の学生プログラム・アシスタント (PA) が参加しており、週1回のディスカッション・クラスにおいて授業内容や課題についてのフォローを受けることができる。

事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッション・プレゼンテーションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。

《到達目標 (Course Objectives)》

グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。

参加者は各自が有する英語能力スコアの向上を目指すとともに、米国の科学技術とビジネス展開の現状について学ぶ。また、文化の多様性について学び、英語圏の高等教育機関において求められる能動的な学習態度・姿勢について理解を深めることを目標とする。プログラム・アシスタント (PA) の配置などにより、現地学生や地域社会との交流活動に参加し、異文化理解を促進する。

2 授業内容 (Course Contents)

(1) 事前学習 (全3回×100分) 2020年2月4日 (火) 13:00～18:20

第1回: 本講座全体のイントロダクション。国際的なキャリア形成を目指すうえで海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。

第2回: カリフォルニア大学デービス校の歴史やデービスの街について知り、日本との学習環境の相違点や共通点を学ぶ。また、授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行う。

第3回: 留学生活における注意点や渡航時の留意事項、現地での安全対策などを理解する。また、最終レポートの作成などについて説明を行う。

(2) 現地研修 (カリフォルニア大学デービス校 English for Science and Technology)

※最終的な日程等は募集要項を確認すること。

派遣先教育機関	カリフォルニア大学デービス校
派遣日程	2020年2月12日 (水) から2020年3月15日 (日) <予定>
授業内容	下記の集中講義 (週20時間) を受ける。また、最終日にテストを行う。 ① Hot Topics in Science and Technology ② Intercultural Research Project ③ Listening and Pronunciation ④ Introduction to Entrepreneurship 上記以外に、最先端の科学技術を活用している企業や研究所を訪問する。

(3) 事後学習 2020年3月17日 (火) 13:00～14:40

本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、成果分析の手法を学ぶ。また、帰国時ま

で各自が最終レポートを提出する。

3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

(1) 定員
カリフォルニア大学デービス校での3コース合わせて40名。受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。

(2) 履修要件
TOEIC (IP 含む) 550点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することが履修要件。
3月卒業予定の学部4年生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。

(3) 費用
短期研修参加費として約68万円程度 (滞在費、航空運賃、現地交通費を含む) の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。
プログラムの詳細については、<https://www.meiji.ac.jp/cip/globalprogram/index.html> を必ず確認すること。

4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)

事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。

5 教科書 (Textbook)

特に定めない。(オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。)

6 参考書 (Reference)

『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ)
『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社)
『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジンズ)
『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版)
『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)
『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)

7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

以下の諸点により、総合評価を行う。

(1) 事前学習及び事後学習における貢献度 (10%)
※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。

(2) 最終レポートの評価 (20%)

(3) カリフォルニア大学デービス校における評価 (70%)

8 その他 (Other)

本講座における中心的課題の一つに、自らの海外学習の成果を分析し、キャリア形成のために自分の強みと今後の課題を把握することがある。この目的のために、学習体験の記録をとるなどし、自己の学びの分析に役立ててもらいたい。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者						
海外文化・専門集中講座 (カリフォルニア大学デービス校 English for Global Business)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	天木 勇樹						
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化間コミュニケーションに関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>参加者は「グローバルビジネス」をテーマとした専門授業を受講するほか、異文化マネジメント力の向上のための実践的トレーニングを受ける。具体的には、Business Communications Skills, Case Studies in Global Business, Intercultural Business Research Project, Hot Topics in Global Business の4つの授業を受講する。また、Introduction to Regional Business and Industry の授業では、デービス市の現地企業の経営者による講義や企業訪問が含まれている。さらに、ビジネスの場における実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。週1回のHot Topics in Global Businessの授業において、カリフォルニア大学デービス校の現役学生を交えたディスカッションを行い、会話力の強化を図ります。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッション・プレゼンテーションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p> <p>参加者は各自が有する英語能力スコアの向上を目指すとともに、米国の文化の多様性について学び、異なる文化を尊重する基本的姿勢を身につける。また、英語圏の高等教育機関において求められる能動的な学習態度・姿勢について理解を深めることを目標とする。現地学生のプログラム・アシスタント (PA) の配置などにより、現地学生や地域社会との交流活動に参加し、異文化理解を促進する。</p>											
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 (全3回×100分) 2020年2月4日 (火) 13:00～18:20</p> <p>第1回: 本講座全体のイントロダクション。国際的なキャリア形成を目指すうえで海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。</p> <p>第2回: カリフォルニア大学デービス校の歴史やデービスの街について知り、日本との学習環境の相違点や共通点を学ぶ。また、授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行う。</p> <p>第3回: 留学生活における注意点や渡航時の留意事項、現地での安全対策などを理解する。また、最終レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 (カリフォルニア大学デービス校 English for Global Business)</p> <p>※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <table border="1"> <tr> <td>派遣先教育機関</td> <td>カリフォルニア大学デービス校</td> </tr> <tr> <td>派遣日程</td> <td>2020年2月12日 (水) から2020年3月15日 (日) <予定></td> </tr> <tr> <td>授業内容</td> <td> <p>下記の集中講義 (週20時間) を受ける。最終日にテストを行う。</p> <p>① Business Communication Skills</p> <p>② Intercultural Research Project</p> <p>③ Hot Topics in Global Business</p> <p>④ Introduction to Entrepreneurship</p> <p>上記以外に、デービス市の地元企業訪問や、経営者やビジネスの専門家による講義を受ける日が設けられている。また訪問に先立ち事前講習とフォローアップのため</p> </td> </tr> </table>						派遣先教育機関	カリフォルニア大学デービス校	派遣日程	2020年2月12日 (水) から2020年3月15日 (日) <予定>	授業内容	<p>下記の集中講義 (週20時間) を受ける。最終日にテストを行う。</p> <p>① Business Communication Skills</p> <p>② Intercultural Research Project</p> <p>③ Hot Topics in Global Business</p> <p>④ Introduction to Entrepreneurship</p> <p>上記以外に、デービス市の地元企業訪問や、経営者やビジネスの専門家による講義を受ける日が設けられている。また訪問に先立ち事前講習とフォローアップのため</p>
派遣先教育機関	カリフォルニア大学デービス校										
派遣日程	2020年2月12日 (水) から2020年3月15日 (日) <予定>										
授業内容	<p>下記の集中講義 (週20時間) を受ける。最終日にテストを行う。</p> <p>① Business Communication Skills</p> <p>② Intercultural Research Project</p> <p>③ Hot Topics in Global Business</p> <p>④ Introduction to Entrepreneurship</p> <p>上記以外に、デービス市の地元企業訪問や、経営者やビジネスの専門家による講義を受ける日が設けられている。また訪問に先立ち事前講習とフォローアップのため</p>										

	の授業(各50分)を実施する。
<p>(3) 事後学習 2020年3月17日 (火) 13:00～14:40</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、成果分析の手法を学ぶ。また、帰国時までに各自が最終レポートを提出する。</p>	
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員</p> <p>カリフォルニア大学デービス校での3コース合わせて40名。受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP 含む) 550点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することが履修要件。</p> <p>3月卒業予定の学部4年生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約68万円程度 (滞在費、航空運賃、現地交通費を含む) の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。</p> <p>プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/globalprogram/index.html を必ず確認すること。</p>	
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>	
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。(オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。)</p>	
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ)</p> <p>『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジズ)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版)</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)</p>	
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度 (10%)</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 最終レポートの評価 (20%)</p> <p>(3) カリフォルニア大学デービス校における評価 (70%)</p>	
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講座における中心的課題の一つに、自らの海外学習の成果を分析し、キャリア形成のために自分の強みと今後の課題を把握することがある。この目的のために、学習体験の記録をとるなどし、自己の学びの分析に役立ててもらいたい。</p>	

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外文化・専門集中講座 (スタンフォード大学 American Language & Culture: Silicon Valley)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	エルウッド, ジェームズ
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>スタンフォード大学内にオフィスを構える米国 NPO 法人 VIA (Volunteers in Asia) とスタンフォード大学との共催によるスタンフォード大学サマーセッション公式科目です。4週間のプログラムでは、英語コミュニケーション力向上のための授業のほか、アメリカ文化についての講義(社会学専攻の大学院生インストラクターによる講義)やシリコンバレーの企業訪問、そしてアメリカ文化に関する研究調査が含まれます。研究調査では、学生自身で課題設定を行い、文献調査やインタビューを行いながらレポートにまとめ、プレゼンテーションを行い、フィードバックを得るといった一連のプロジェクトを進めます。</p> <p>海外での集中講義の前後に事前・事後学習を合わせて受講し、海外での学習の効果を高めます。事前学習では、国際的なキャリア形成を目指す上で海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学びます。また、留学先での授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行います。事後学習では、海外での集中講義で学んだ成果を、レポートの作成およびプレゼンテーションにより確認します。</p> <p>このプログラムは、海外文化・専門集中講座のうち【グローバル教養型】であり、グローバル人材として、異なる文化・価値観を尊重する基本的姿勢・教養を身につけることを目指しています。</p> <p>到達目標は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「自ら判断し現場に入って物事を動かす「現場力」を持った人材となる。 ● 米国の多民族国家、多文化社会の現状を学ぶことを通じて、異なる文化・価値観を尊重する基本的姿勢を獲得する。 ● 特定の課題について、グローバルな視点でより深く認識できるようになる。 					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2019年7月8日(月) 18:00～19:40 和泉キャンパス 第一校舎 204教室</p> <p>国際的なキャリア形成を目指す上で海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学びます。また、英文レポートの書き方の基本を学びます。あわせて、各自の目標設定及び課題を明確にします。</p> <p>(2) 現地研修 (スタンフォード大学 American Language & Culture: Silicon Valley)</p> <p>派遣先教育機関: スタンフォード大学</p> <p>派遣日程: 2019年8月4日(日)～2019年9月1日(日) (予定)</p> <p>授業内容: スタンフォード大学の教員による英語授業及び研究指導、スタンフォードやサンフランシスコでの課外活動、シリコンバレーにある企業を訪問、非営利団体でのボランティア活動、社会問題に対する知識を深めるためのパネルセッションやワークショップに参加</p> <p>(3) 事後学習 2019年9月19日(木) 10:00～11:40 駿河台キャンパス グローバルフロント 4021教室</p> <p>海外の集中講義で学んだ成果を、レポートに作成するとともに、プレゼンテーションを行います。</p>					

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 受講定員 5名程度 (最少催行人数1名)</p> <p>※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。 ※最少催行人数に満たない場合は、催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。</p> <p>(2) 履修要件 下記いずれかのスコア以上に相当する英語力を有すること。 TOEIC (IP含む) 550点、TOEFL iBT 55点、TOEFL ITP 490点、IELTS 5.5以上 9月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用 113万円程度(滞在費、航空運賃、食費を含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/globalprogram/index.html を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review)</p> <p>研修先国・地域の文化、生活習慣、社会事情等の基礎知識に得るために、各自事前調査を行ってください。また、渡航するまでにさらに語学力の向上を図るため、自主学習を行ってください。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著 (新潮社、2013年)</p> <p>『Ten Tips for Better Business writing』 http://www.forbes.com/2010/05/03/better-business-writing-leadership-careers-tips.html</p> <p>『BBC Learning English』 http://www.bbc.co.uk/learningenglish</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価をおこないます。</p> <p>(1) 事前学習への参加と授業への貢献度 (10%)</p> <p>(2) スタンフォード大学による評価 (70%)</p> <p>(3) 事後学習におけるプレゼンテーション (10%)</p> <p>(4) 帰国後に提出するレポート (10%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>当科目は英語により授業を実施する。</p> <p>将来、英語圏への長期留学を目指している学生、海外大学院(特に英語圏)への進学を目指している学生、英語による研究調査方法を身に付けたい学生を履修対象とします。</p> <p>宿舎は、スタンフォード大学学生寮の予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外文化・専門集中講座 (ペンシルベニア大学 The Persuasive Strategies for Entrepreneurship Program)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	エルウッド, ジェームズ
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>アメリカ合衆国・ペンシルベニア大学 College of Liberal and Professional Studies が提供する留学生向けプログラム The Persuasive Strategies for Entrepreneurship Program (PSE) プログラムを受講する。</p> <p>Strategic Planning, Persuasive Communication そして Leadership & Teambuilding の授業を受講し、商品開発・市場調査・マーケティングなど、ビジネスの様々なシーンで活用できるコミュニケーションスキルを、グループワーク、プレゼンテーション、ウェブデザイン、模擬クラウドファンディングなどの体験型学習を通して集中的に学びます。最終的には、ビジネスの場だけでなく、英語を利用したコミュニケーションの場において、自分の意見や考えを効率的かつ効果的に相手へ伝えるスキルの修得を目指します。</p> <p>課題活動も充実しており、フィラデルフィア美術館や企業訪問が予定されています。</p> <p>海外での集中講義の前後に事前・事後学習を合わせて受講し、海外での学習の効果を高めます。事前学習では、日本人のビジネスコミュニケーションとグローバル社会におけるビジネスコミュニケーションの違い、ビジネスの場面における異文化間コミュニケーションの基本を学びます。また、事後学習では、海外での集中講義で学んだ成果を、レポートの作成およびプレゼンテーションにより確認します。</p> <p>このプログラムは、海外文化・専門集中講座のうち【ビジネス・キャリア型】であり、世界における経済・ビジネスの実例や現状を学ぶことを通じて、経済・ビジネスに係る見識を深めるとともに、「グローバルな環境で働くこと」についてのキャリア・ビジョンを明確にすることを目指しています。</p> <p>到達目標は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ビジネスの現場における効果的な交渉術やミーティングの方法を理解している。 ● ビジネスの現場で求められる文書を英語で書くことができる。 ● ビジネスに関する話題を英語で理解し、自分の考えを相手に伝えることができる。 <p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2019年7月8日(月) 18:00～19:40 和泉キャンパス 第一校舎 204 教室</p> <p>日本人のビジネスコミュニケーションとグローバル社会におけるビジネスコミュニケーションの違い、ビジネスの場面における異文化間コミュニケーションの基本を学びます。また、英文レポートの書き方の基本を学びます。あわせて、各自の目標設定及び課題を明確にします。</p> <p>(2) 現地研修 (ペンシルベニア大学 The Persuasive Strategies for Entrepreneurship Program)</p> <p>派遣先教育機関：ペンシルベニア大学</p> <p>派遣日程：2019年8月4日(日)～2019年8月25日(日) (予定)</p> <p>授業内容：Strategic Planning, Persuasive Communication そして Leadership & Teambuilding の授業とペンシルベニア大学で教鞭を執る教員およびビジネスリーダーによる4回の講義、2回の企業訪問が予定されています。</p> <p>(3) 事後学習 2019年9月19日(木) 10:00～11:40 駿河台キャンパス グローバルフロント 4021 教室</p> <p>海外の集中講義で学んだ成果を、レポートに作成するとともに、プレゼンテーションを行います。</p>					

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 受講定員 15名程度 (最少催行人数 10名) ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。 ※最少催行人数に満たない場合は、催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。</p> <p>(2) 履修要件 下記いずれかのスコア以上に相当する英語力を有すること。 TOEIC (IP 含む) 550 点、TOEFL iBT 57 点、TOEFL ITP 490 点、IELTS 5.5 以上 9月卒業の学部生が受講した場合、単位修得は認められない。(本プログラムへの参加は認める。)</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約 67 万円程度 (滞在費、航空運賃などを含む) の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/globalprogram/index.html を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)</p> <p>研修先国・地域の文化、生活習慣、社会事情等の基礎知識に得るために、各自事前調査を行ってください。また、渡航するまでにさらに語学力の向上を図るため、自主学習を行ってください。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著 (新潮社、2013 年) 『日本人の知らない ワンランク上のビジネス英語術』ウィリアム・A・ヴァンス 著 (神田房枝監訳) (CCC メディアハウス、2013 年) 『一流は、なぜシンプルな英単語で話すのか』柴田真一 著 (青春出版社、2016 年) 『Ten Tips for Better Business Writing』 http://www.forbes.com/2010/05/03/better-business-writing-leadership-careers-tips.html</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習への参加と授業への貢献度 (10%) (2) ペンシルベニア大学による評価 (70%) (3) 事後学習におけるプレゼンテーション (10%) (4) 帰国後に提出するレポート (10%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>当科目は英語により授業を実施する。 将来国際的なビジネス環境で働くことに関心のある学生、長期留学 (特に米国) を目指す学生や将来海外の大学院進学 (特に米国) を目指す学生を履修対象とします。 宿舎は、ペンシルベニア大学が指定する学生寮の予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外文化・専門集中講座 (ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジ異文化理解プログラム)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	エルウッド, ジェームズ
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジが明治大学の学生向けにカリキュラムを設計したプログラムです。経験豊富な講師陣によるユニークな専門科目授業(セミナー)を受講することができます。また、英語授業では、海外の大学(特に英語圏)で学ぶために必要な、アカデミックイングリッシュを、リサーチプロジェクトなどを通して実践的に学びます。</p> <p>授業・課外活動などプログラム全体にアクティブ・ラーニングアプローチを積極的に取り入れており、視察やリサーチプロジェクトなどを通し、現地の人々と交流することで、実践的英語力の向上及びイギリス社会・文化に対する理解力強化を図ります。</p> <p>海外での集中講義の前後に事前・事後学習を合わせて受講し、海外での学習の効果を高めます。事前学習では、国際的なキャリア形成を目指す上で海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学びます。また、留学先での授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行います。事後学習では、海外での集中講義で学んだ成果を、レポートの作成およびプレゼンテーションにより確認します。</p> <p>このプログラムは、海外文化・専門集中講座のうち【テーマ探究型】であり、特定のテーマについて、グローバルな視点でより広く認識し、国際社会への理解を深めることを目指しています。</p> <p>到達目標は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外留学について理解し、より長期の留学に必要な素養を養う。 ● コミュニケーションについての理解を深める。 					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2019年7月8日(月) 18:00～19:40 和泉キャンパス 第一校舎 204教室</p> <p>事前学習では、派遣先教育機関における専門科目授業(セミナー)受講に必要な語学力(英語4技能)の効果的な学習法、ケンブリッジ大学やイギリスの大学教育に関する基礎知識等について学びます。主にペアワークやグループワーク形式で受講します。</p> <p>(2) 現地研修 (ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジ異文化理解プログラム)</p> <p>派遣先教育機関: ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジ</p> <p>派遣日程: 2019年8月14日(水)～2019年9月9日(月) (予定)</p> <p>授業内容: 専門科目授業(セミナー)及び英語学習(アカデミックイングリッシュ)。セミナーは①ジャーナリズムとイギリスの現代事情 (Journalism and Current Affairs in the UK)、②イギリスの芸術と建築 (Art and Architecture)、③ケンブリッジにおける科学 (Science in Cambridge) の3つのコースから2コースを選択する。</p> <p>(3) 事後学習 2019年9月19日(木) 10:00～11:40 駿河台キャンパス グローバルフロント 4021教室</p> <p>事後学習では、グループプレゼンテーション形式による、成果発表を行います。発表内容は派遣先教育機関における学修内容、気づき、経験等となります。</p> <p>成果発表の後、担当教員が派遣先教育機関の教員による評価や講評についてのフィードバックを行うことで、今後の学生生活やより長期の海外留学に必要な素養を養います。</p>					

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 受講定員 16名程度(最少催行人数10名)</p> <p>※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>※最少催行人数に満たない場合は、催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。</p> <p>(2) 履修要件 下記いずれかのスコア以上に相当する英語力を有すること。 TOEIC (IP含む) 550点、TOEFL iBT 60点、TOEFL ITP 490点、IELTS 5.0以上</p> <p>なお、これらの語学スコアを取得していない学生については、担当教員が面談を行い、語学力を測定します。 9月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用 76万円程度(滞在費、航空運賃、食費(平日2食、土日1食)を含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。</p> <p>プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/globalprogram/index.html を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review)</p> <p>事前学習の予習として、自身の海外留学に関する興味・関心や考えをまとめておき、事前学習で発言すること。また、事前学習の復習として、渡航前に事前学習の各テーマについて各自知識を深め、渡航中や事後学習の際に、担当教員とディスカッションすること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著 (新潮社、2013年)</p> <p>『Ten Tips for Better Business writing』 http://www.forbes.com/2010/05/03/better-business-writing-leadership-careers-tips.html</p> <p>『BBC Learning English』 http://www.bbc.co.uk/learningenglish</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価をおこないます。</p> <p>(1) 事前学習への参加と授業への貢献度 (10%)</p> <p>(2) ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジによる評価 (70%)</p> <p>(3) 事後学習におけるプレゼンテーション (10%)</p> <p>(4) 帰国後に提出するレポート (10%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>当科目は英語により授業を実施する。</p> <p>将来、英語圏への長期留学を目指している学生、海外大学院(特に英語圏)への進学を目指している学生、英語による研究調査方法を身に付けたい学生を履修対象とします。</p> <p>宿舎は、ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジが指定する学生寮の予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （ワシントン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	天木 勇樹
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような語学研修を受ける。</p> <p>当研修は、ワシントン大学（アメリカ）にて実施される3週間の「Short Term English Program (STEP) Language & Culture」コースに参加し、アメリカ文化を学びながら実用的な英語のコミュニケーション能力を高めることを目的としている。特に発音や語彙力の向上に力を入れている他、午後の課外活動では実際に使える日常的な英語表現を学ぶことができる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2020年1月20日（月）18:00～19:40 和泉キャンパス</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地派遣 2020年2月上旬～下旬（予定）※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>「STEP Language & Culture」コースでは、プログラム冒頭に行われるプレイズメントテストに応じて、自身の英語力にあったクラスに参加する。クラスレベルは初級～上級に分かれており、1クラス14～18名の少人数制クラスです。午前中（3時間）は教室で学び、午後はクラスメイトと一緒にフィールドトリップやアクティビティなどの課外活動に参加する。映画や社会見学などを通じてアメリカ文化にも触れながら、実用的な英語を学ぶ。</p> <p>(3) 事後学習 2020年3月26日（木）10:00～11:40 駿河台キャンパス</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 25名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部4年生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修費用として約50万円程度（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。</p>					

プログラムの詳細については、 https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習（1回）の他に、渡航前オリエンテーションを3回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （アデレード大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような語学研修を受ける。</p> <p>当研修は、アデレード大学（オーストラリア）の英語研修機関 English Language Centre (ELC) にて実施される5週間の「General English for Academic Purpose (GEAP)」コースに参加し、海外大学の学部・大学院レベルの授業を受けるために必要な英語力を養うための入門プログラムであり、大学生として必要な基本的な英語力を高めることができる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2020年1月21日(火) 18:00～19:40 和泉キャンパス</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2020年2月上旬～3月中旬(予定) ※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>参加者は、1日4時間英語クラスを受講する。月曜日～木曜日のクラスでは、会話・リスニング・読解・筆記・文法および語彙の向上に焦点を当てた内容を学び、ペアワークやロールプレイ、ディスカッションなどを通じて理解を深める。金曜日のクラスでは、TOEFL iBT や IELTS のテスト準備、オーストラリアの社会事情、ビジネス英語など、特に伸ばしたい技能や興味のある分野を選択して学ぶことができる。また、オーディオ教材などを使用し、英語だけでなくオーストラリアの文化や社会への理解を深めることができる。</p> <p>(3) 事後学習 2020年3月26日(木) 13:00～14:40 駿河台キャンパス</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 25名(最少催行人数10名)</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約56万円程度(滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。</p>					

プログラムの詳細については、 https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%）</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習（1回）の他に、渡航前オリエンテーションを3回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （ユーコン・カレッジ）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	天木 勇樹
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような語学研修を受ける。</p> <p>当研修は、ユーコン・カレッジ（カナダ）によって本学の学生のために特別に組まれたプログラムであり、英語運用能力向上を図るとともにカナダの生活や文化に関する理解を深めることを目的としたプログラムである。また、研修2週目を以降、現地の学生が受講するクラス（History of Yukon First Nations and Self-Government または Environmental Change and Community Health（予定）のうち1つを選択）を聴講する。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2020年1月20日（月）18:00～19:40 和泉キャンパス</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2020年2月上旬～3月上旬（予定）※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>実践的な英語力を身につけることを目標とするため、特に日常英会話とコミュニケーションの向上に重点を置いた授業を受講する。なお、英語の授業は第2外国語としての英語教授法の資格を持つユーコン・カレッジの講師が担当する。また、研修2週目を以降、現地の学生が受講するクラス（History of Yukon First Nations and Self-Government または Environmental Change and Community Health（予定）のうち1つを選択）を聴講する。</p> <p>(3) 事後学習 2020年3月26日（木）10:00～11:40 駿河台キャンパス</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 15名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部4年生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約52万円程度（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。</p>					

と。
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習（1回）の他に、渡航前オリエンテーションを3回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （ブリティッシュ・コロンビア大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	天木 勇樹
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような語学研修を受ける。</p> <p>当研修は、ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）の英語研修機関 English Language Institute (ELI)にて実施される4週間の「English for the Global Citizen」に参加するプログラムである。English for the Global Citizen コースは、カナダの市民社会、国際性、持続可能性に関するテーマについて学びながら、スピーキング力と流暢さを向上させるプログラムである。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2020年1月20日（月）18:00～19:40 和泉キャンパス</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2020年2月下旬～3月下旬（予定）※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>1週間当たりの授業時間数は約25.5時間となる。午前の授業では、より専門的な語学力養成のためのテーマに沿った授業（Cross-Cultural Communication, Canadian Society 等）が行われ、午後の授業では、グループプロジェクトやプレゼンテーションが中心の授業を受講する。</p> <p>(3) 事後学習 2020年3月26日（木）10:00～11:40 駿河台キャンパス</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 20名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部4年生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約55万円程度（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習（1回）の他に、渡航前オリエンテーションを3回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （ビクトリア大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	天木 勇樹
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、ビクトリア大学（カナダ）の英語研修機関 English Language Centre (ELC)にて実施される4週間の「Monthly English」に参加するプログラムである。Monthly English プログラムでは、月曜日から木曜日までは他国からの留学生と共に英語を学び、金曜日や週末に様々なアクティビティに参加し、実践的な英語能力を向上させることを目的としている。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2020年1月20日（月）18:00～19:40 和泉キャンパス</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2020年3月上旬～3月下旬（予定）※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>文法やリスニングだけに時間を費やすのではなく、総合的な英語スキルを学習する「コミュニケーションアプローチ（Communicative Approach）」という言語学習/教授法が取り入れられた授業を受講する。ロールプレイを通して、英語コミュニケーションの練習をするなど、学生がクラスの中心となりアクティビティやディスカッションに積極的に参加することが求められる。</p> <p>(3) 事後学習 2020年3月26日（木）10:00～11:40 駿河台キャンパス</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 20名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部4年生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約46万円程度（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.htmlを必ず確認すること。</p>					

と。
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習（1回）の他に、渡航前オリエンテーションを3回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （モナシュ大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、モナシュ大学（オーストラリア）の英語研修機関 Monash University English Language Centre (MUELC)にて実施される5週間の「Monash English」に参加するプログラムである。Monash Englishプログラムでは、海外の大学・大学院において英語で専門科目を学ぶ際に必要な英語力習得を目的とした English for Academic Purpose を学ぶことができる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2020年1月21日(火) 18:00～19:40 和泉キャンパス</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2020年2月上旬～3月中旬(予定) ※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>授業時間は1日4時間となる。授業はe-learning化が進んでおり、授業内でもPCを使用する。また、ペアワークやグループワーク等の学生主体の参加型授業では、積極的な姿勢が求められる。授業以外には週15時間の自習が推奨されており、無料でIELTS対策や会話力を高めるワークショップも受講することができる。</p> <p>(3) 事後学習 2020年3月26日(木) 13:00～14:40 駿河台キャンパス</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 20名(最少催行人数10名)</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約60万円程度(滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.htmlを必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容(Preparation and Review)</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書(Textbook)</p> <p>特に定めない。(オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。)</p>
<p>6 参考書(Reference)</p> <p>『30秒でできる!ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修(IBCパブリッシング) 『30秒でできる!ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修(IBCパブリッシング) 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著(あさ出版) 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著(あさ出版) 『信じる!伝える!実現する!』齋藤佳子 著(宝島社)</p>
<p>7 成績評価の方法(Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度(10%) ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート(10%)</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価(80%)</p>
<p>8 その他(Other)</p> <p>事前学習(1回)の他に、渡航前オリエンテーションを3回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （オークランド大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、オークランド大学（ニュージーランド）の英語研修機関 English Language Academy（ELA）にて実施される「General English」コースに4週間参加するプログラムである。General English コースでは、日常生活に必要な英語力を伸ばしたい学生やアカデミック英語コースへ進むための準備が必要な学生のためのプログラムである。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2020年1月21日(火) 18:00～19:40 和泉キャンパス</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2020年2月上旬～3月中旬(予定) ※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>プレイメントテストでElementary, Pre-Intermediate, Intermediate, Upper-Intermediate, Advancedの5段階にクラス分け、週20時間の英語クラスを受講する。1日4時間の英語クラスでは、2時間のコアクラスと2時間の選択クラス（Communication Skills, English for IELTS または Business English (予定) などから選択）で構成されている。英語クラスでは、ペアワーク、グループワークなどを通して、リスニング、リーディングスキルのほか、ライティングとスピーキングにおける語彙、流暢性、正確性について総合的に学ぶことができる。</p> <p>(3) 事後学習 2020年3月26日(木) 13:00～14:40 駿河台キャンパス</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 20名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部4年生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約53万円程度（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レ</p>					

<p>ートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。</p> <p>プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.htmlを必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習（1回）の他に、渡航前オリエンテーションを3回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （エンデラン大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短期間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン4時間＋レベル別グループレッスン4時間＝8時間×3週間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化への適応力の涵養も目指す。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化に対する適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルはCEFR A2レベル（すでにB1レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後にB1レベルに達することを目標とする。</p> <p>※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>【事前講義】(全1回×100分) 2019年7月13日(土) 2時限 10:50～12:30 駿河台キャンパス アカデミーコモン 308E 教室</p> <p>留学の心得や、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。合わせて、事前学習として課されている「受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ（講義後担当教員に提出）」を基に、現地研修での学びを充実させるためのグループディスカッションを行う。</p> <p>【現地研修】</p> <p>派遣日程：2019年8月4日(日)～8月24日(土) (予定) ※最終的な日程は募集要項を確認すること。</p> <p>(1) マンツーマンレッスン</p> <p>個人授業用に仕切られたブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日4時間行う。Accent Training and Vocabulary Buildingでは、発話の基礎となる発音と語彙力を鍛える。Chatter Boxでは、様々なトピックについて担当講師と会話をし、実践を通じて英語発話力を向上させる。</p> <p>(2) グループレッスン</p> <p>レベル別に4～6人で構成されるグループ毎の授業を毎日4時間行う。Oral Communication/Conversational Englishでは基本的に90分を1単位とし、日常生活や社会事象に関する様々なトピックについて、担当講師やクラスメートとのディスカッションやプレゼンテーションといった活動を通じて、実践的な言語使用環境において英語発信力を向上させる。Field Workでは、現地の人々と対話するタスクに取り組むことで、英語発信力と異文化適応力を同時に養成する。</p> <p>(3) 異文化理解</p> <p>College Sit-inでは、「ホスピタリティ」・「マネジメント」・「ビジネスと経済」・「調理技術」等、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、非日本語圏の講義スタイルに基づき「英語で」勉学する疑似体験を通じて、異文化への適応力を高める。加えて、Mixer Nightと呼ばれる学内イベントでは、エンデラン大学学生との交流を図り、週末のField Tripでは、フィリピンの文化や歴史を身近に感じながら異文化理解を深める。</p> <p>(4) 学習定着度診断</p> <p>毎週金曜日に授業時間の一部を使い、1週間の学習の定着度を測る Weekly Assessment が実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習内容の定着度を測る Summative Assessment が実施され、その結果は、後日発行される個人の Progress Report に反映される。</p> <p>【事後講義】(全1回×100分) 2019年8月27日(火) 4時限 15:20～17:00 駿河台キャンパス グローバルフロント 402I 教室</p> <p>「講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ（講義後担当教員に提出）」を基に、現地研修での学</p>					

<p>びを自己評価し、今後の目標を明確にするためのグループディスカッションを行う。</p>
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 履修要件は特にないが、本プログラムは 渡航前に CEFR A2 (TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110) レベルの英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1 (TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150) レベルの学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するプレイスメントテストの結果に基づいて行われる。</p> <p>(2) 9月卒業予定の学部4年生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認められる）。</p> <p>(3) 英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Test をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。</p> <p>※TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toeic/test/speaking.html</p> <p>(4) プログラム参加費として約27万円（滞在費、航空運賃、現地空港送迎を含む）の負担が必要となる（2018年度春季実施時概算金額）。また、為替レートの変動等により、参加費が変更になる可能性がある。</p> <p>プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparations and Review)</p> <p>開講前後に事前・事後学習として、以下の日本語エッセイを作成し、提出すること。</p> <p>(1) 受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ</p> <p>(2) 講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ</p> <p>また、学習効率を最大化するため、渡航前に可能な限り英語能力の向上に努めること。具体的には、毎日15分英語を聴く、会話表現や定型フレーズの音読を習慣的に行う、スカイプ英会話等を利用し英語で「聴く・話す」ことに慣れておく等の事前学習を強く勧める。</p> <p>加えて、フィリピン固有の文化や社会事象についても事前に学習し、異文化適応力を下支えする現地社会に関する基礎知識を備えておくことが強く望まれる。</p> <p>※「フィリピン共和国 Republic of the Philippines」(外務省ホームページ) http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html</p> <p>帰国後も継続的に英語発信力を向上させるため、スカイプ英会話等を利用して英語で話す機会を確保することや、定期的に TOEIC® Speaking Test 等を受験することで自身のスキルを客観的に測定し、自ら設定した到達目標を上方修正し続けることを勧める。</p> <p>※TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toeic/test/speaking.html</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>エンデラン大学が作成・配布するテキスト</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>特に指定しないが、明治大学が運営する「留学志望者対象英語プログラム」のうち、レベルや目的にあった講座の事前受講を勧める。</p> <p>※「留学志望者対象英語プログラム」(明治大学国際連携機構ホームページ) https://www.meiji.ac.jp/cip/study_abroad_english/index.html</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>プログラム受講前・受講後の日本語エッセイおよびエンデラン大学による評価による総合評価を行う。</p> <p>(1) 受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ (10%) ※事前講義日に担当教員まで提出</p> <p>(2) エンデラン大学による評価 (80%)</p> <p>(3) 講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ (10%) ※事後講義日に担当教員まで提出</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>(1) 受講を希望する学生は、初回および渡航前オリエンテーション（日程は後日通知）に参加すること。</p> <p>(2) 現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。</p> <p>(3) 現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （エンデラン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短期間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン4時間＋レベル別グループレッスン4時間＝8時間×3週間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化への適応力の涵養も目指す。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化に対する適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルはCEFR A2レベル（すでにB1レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後にB1レベルに達することを目標とする。</p> <p>※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>【事前講義】(全1回×100分) 2019年12月21日(土) 3時限 13:30-15:10 留学の心得や、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。合わせて、事前学習として課されている「受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ（講義後担当教員に提出）」を基に、現地研修での学びを充実させるためのグループディスカッションを行う。</p> <p>【現地研修】派遣日程：2020年2月上旬～2月末（予定）※最終的な日程は募集要項を確認すること。</p> <p>(1) マンツーマンレッスン 個人授業用に仕切られたブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日4時間行う。Accent Training and Vocabulary Buildingでは、発話の基礎となる発音と語彙力を鍛える。Chatter Boxでは、様々なトピックについて担当講師と会話をし、実践を通じて英語発話力を向上させる。</p> <p>(2) グループレッスン レベル別に4～6人で構成されるグループ毎の授業を毎日4時間行う。Oral Communication/Conversational Englishでは基本的に90分を1単位とし、日常生活や社会事象に関する様々なトピックについて、担当講師やクラスメートとのディスカッションやプレゼンテーションといった活動を通じて、実践的な言語使用環境において英語発信力を向上させる。Field Workでは、現地の人々と対話するタスクに取り組むことで、英語発信力と異文化適応力を同時に養成する。</p> <p>(3) 異文化理解 College Sit-inでは、「ホスピタリティ」・「マネジメント」・「ビジネスと経済」・「調理技術」等、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、非日本語圏の講義スタイルに基づき「英語で」勉学する疑似体験を通じて、異文化への適応力を高める。加えて、Mixer Nightと呼ばれる学内イベントでは、エンデラン大学学生との交流を図り、週末のField Tripでは、フィリピンの文化や歴史を身近に感じながら異文化理解を深める。</p> <p>(4) 学習定着度診断 毎週金曜日に授業時間の一部を使い、1週間の学習の定着度を測るWeekly Assessmentが実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習内容の定着度を測るSummative Assessmentが実施され、その結果は、後日発行される個人のProgress Reportに反映される。</p> <p>【事後講義】(全1回×100分) 帰国後翌週の火曜日4時限 15:20～17:00（予定）※最終的な日程は募集要項を確認すること。 「講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ（講義後担当教員に提出）」を基に、現地研修での学びを自己評価し、今後の目標を明確にするためのグループディスカッションを行う。</p>					

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 履修要件は特にないが、本プログラムは 渡航前に CEFR A2 (TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110) レベルの英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1 (TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150) レベルの学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するプレイスメントテストの結果に基づいて行われる。</p> <p>(2) 3月卒業予定の学部4年生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Test をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。</p> <p>※TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p> <p>(4) プログラム参加費として約28万円（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要となる。（2018年度春季実施時概算金額）また、為替レートの変動等により、参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparations and Review)</p> <p>開講前後に事前・事後学習として、以下の日本語エッセイを作成し、提出すること。</p> <p>(1) 受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ (2) 講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ</p> <p>また、学習効率を最大化するため、渡航前に可能な限り英語能力の向上に努めること。具体的には、毎日15分英語を聴く、会話表現や定型フレーズの音読を習慣的に行う、スカイプ英会話等を利用し英語で「聴く・話す」ことに慣れておく、等の事前学習を強く勧める。</p> <p>加えて、フィリピン固有の文化や社会事象についても事前に学習し、異文化適応力を下支えする現地社会に関する基礎知識を備えておくことが強く望まれる。 ※「フィリピン共和国 Republic of the Philippines」(外務省ホームページ) http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html</p> <p>さらに、帰国後も継続的に英語発信力を向上させるため、スカイプ英会話等を利用して英語で話す機会を確保することや、定期的に TOEIC® Speaking Test 等を受験することで自身のスキルを客観的に測定し、自ら設定した到達目標を上方向修正し続けることを勧める。 ※TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>エンデラン大学が作成・配布するテキスト</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>特に指定しないが、明治大学が運営する「留学志望者対象英語プログラム」のうち、レベルや目的にあった講座の事前受講を勧める。 ※「留学志望者対象英語プログラム」(明治大学国際連携機構ホームページ) https://www.meiji.ac.jp/cip/study_abroad_english/index.html</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>プログラム受講前・受講後の日本語エッセイおよびエンデラン大学による評価による総合評価を行う。</p> <p>(1) 受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ (10%) ※事前講義日に担当教員まで提出 (2) エンデラン大学による評価 (80%) (3) 講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ (10%) ※事後講義日に担当教員まで提出</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>(1) 受講を希望する学生は、初回および渡航前オリエンテーション（日程は後日通知）に参加すること。 (2) 現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のパナルティが課される。 (3) 現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （エンデラン大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短期間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン4時間＋レベル別グループレッスン4時間＝8時間×6週間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化への適応力の涵養も目指す。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化への適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルはCEFR A2レベル（すでにB1レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後にB1レベルに達することを目標とする。</p> <p>※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>【事前講義】(全1回×100分) 2019年7月13日(土) 2時限 10:50～12:30 駿河台キャンパス アカデミーコモン 308E 教室</p> <p>留学の心得や、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。合わせて、事前学習として課されている「受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ（講義後担当教員に提出）」を基に、現地研修での学びを充実させるためのグループディスカッションを行う。</p> <p>【現地研修】</p> <p>派遣日程：2019年8月4日(日)～9月14日(土) (予定) ※最終的な日程は募集要項を確認すること。</p> <p>(1) マンツーマンレッスン</p> <p>個人授業用に仕切られたブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日4時間行う。Accent Training and Vocabulary Buildingでは、発話の基礎となる発音と語彙力を鍛える。Chatter Boxでは、様々なトピックについて担当講師と会話をし、実践を通じて英語発話力を向上させる。Academic Discourseでは、アカデミックなトピックを題材に、発信力・対話力を養う。</p> <p>(2) グループレッスン</p> <p>レベル別に4～6人で構成されるグループ毎の授業を毎日4時間行う。Oral Communication/Conversational Englishでは基本的に90分を1単位とし、日常生活や社会事象に関する様々なトピックについて、担当講師やクラスメートとのディスカッションやプレゼンテーションといった活動を通じて、実践的な言語使用環境において英語発信力を向上させる。Field Workでは、現地の人々と対話するタスクに取り組むことで、英語発信力と異文化適応力を同時に養成する。Public Speakingでは、ジュスチャーや発声法に気を配りながら、聴衆に分かりやすく自分の意見を伝えるスキルを、様々なタスクを通じて身に付ける。</p> <p>(3) 異文化理解</p> <p>College Sit-inでは、「ホスピタリティ」・「マネジメント」・「ビジネスと経済」・「調理技術」等、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、非日本語圏の講義スタイルに基づき「英語で」勉強する疑似体験を通じて、異文化への適応力を高める。加えて、Mixer Nightと呼ばれる学内イベントでは、エンデラン大学学生との交流を図り、週末のField Tripでは、フィリピンの文化や歴史を身近に感じながら異文化理解を深める。</p> <p>(4) 学習定着度診断</p> <p>毎週金曜日に授業時間の一部を使い、1週間の学習の定着度を測る Weekly Assessment が実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習内容の定着度を測る Summative Assessment が実施され、その結果は、後日発行される個人の Progress Report に反映される。</p> <p>【事後講義】(全1回×100分) 2019年9月17日(火) 4時限 15:20～17:00 駿河台キャンパス 予定</p>					

<p>「講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ（講義後担当教員に提出）」を基に、現地研修での学びを自己評価し、今後の目標を明確にするためのグループディスカッションを行う。</p>
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 履修要件は特にないが、本プログラムは 渡航前に CEFR A2 (TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110) レベルの英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1 (TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150) レベルの学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するプレイメントテストの結果に基づいて行われる。</p> <p>(2) 9月卒業予定の学部4年生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Test をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。</p> <p>※TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toeic/test/speaking.html</p> <p>(4) プログラム参加費として約46万円（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要となる。（2018年度春季実施時概算金額）また、為替レートの変動等により、参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparations and Review)</p> <p>開講前後に事前・事後学習として、以下の日本語エッセイを作成し、提出すること。</p> <p>(1) 受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ (2) 講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ</p> <p>また、学習効率を最大化するため、渡航前に可能な限り英語能力の向上に努めること。具体的には、毎日15分英語を聴く、会話表現や定型フレーズの音読を習慣的に行う、スカイプ英会話等を利用し英語で「聴く・話す」ことに慣れておく、等の事前学習を強く勧める。</p> <p>加えて、フィリピン固有の文化や社会事象についても事前に学習し、異文化適応力を下支えする現地社会に関する基礎知識を備えておくことが強く望まれる。</p> <p>※「フィリピン共和国 Republic of the Philippines」(外務省ホームページ) http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html</p> <p>帰国後も継続的に英語発信力を向上させるため、スカイプ英会話等を利用して英語で「話す」機会を確保することや、定期的に TOEIC® Speaking Test 等を受験することで自身のスキルを客観的に測定し、到達目標を修正し続けることを勧める。</p> <p>※TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toeic/test/speaking.html</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>エンデラン大学が作成・配布するテキスト</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>特に指定しないが、明治大学が運営する「留学志望者対象英語プログラム」のうち、レベルや目的にあった講座の受講を勧める。</p> <p>※「留学志望者対象英語プログラム」(明治大学国際連携機構ホームページ) https://www.meiji.ac.jp/cip/study_abroad_english/index.html</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>プログラム受講前・受講後の日本語エッセイおよびエンデラン大学による評価による総合評価を行う。</p> <p>(1) 受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ (10%) ※事前講義日に担当教員まで提出 (2) エンデラン大学による評価 (80%) (3) 講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ (10%) ※事後講義日に担当教員まで提出</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>(1) プログラムに参加する学生は、初回および渡航前オリエンテーション（日程は後日通知）に参加すること。 (2) 現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。 (3) 現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（英語） （エンデラン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短期間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン4時間＋レベル別グループレッスン4時間＝8時間×6週間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化への適応力の涵養も目指す。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化への適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルはCEFR A2レベル（すでにB1レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後にB1レベルに達することを目標とする。</p> <p>※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>【事前講義】(全1回×100分) 2019年12月21日(土) 3時限 13:30～15:10 留学の心得や、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。合わせて、事前学習として課されている「受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ（講義後担当教員に提出）」を基に、現地研修での学びを充実させるためのグループディスカッションを行う。</p> <p>【現地研修】派遣日程：2020年2月上旬～3月中旬（予定）※最終的な日程は募集要項を確認すること。</p> <p>(1) マンツーマンレッスン 個人授業用に仕切られたブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日4時間行う。Accent Training and Vocabulary Buildingでは、発話の基礎となる発音と語彙力を鍛える。Chatter Boxでは、様々なトピックについて担当講師と会話をし、実践を通じて英語発話力を向上させる。Academic Discourseでは、アカデミックなトピックを題材に、発信力・対話力を養う。</p> <p>(2) グループレッスン レベル別に4～6人で構成されるグループ毎の授業を毎日4時間行う。Oral Communication/Conversational Englishでは基本的に90分を1単位とし、日常生活や社会事象に関する様々なトピックについて、担当講師やクラスメートとのディスカッションやプレゼンテーションといった活動を通じて、実践的な言語使用環境において英語発信力を向上させる。Field Workでは、現地の人々と対話するタスクに取り組むことで、英語発信力と異文化適応力を同時に養成する。Public Speakingでは、ジュスチャーや発声法に気を配りながら、聴衆に分かりやすく自分の意見を伝えるスキルを、様々なタスクを通じて身に付ける。</p> <p>(3) 異文化理解 College Sit-inでは、「ホスピタリティ」・「マネジメント」・「ビジネスと経済」・「調理技術」等、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、非日本語圏の講義スタイルに基づき「英語で」勉強する疑似体験を通じて、異文化への適応力を高める。加えて、Mixer Nightと呼ばれる学内イベントでは、エンデラン大学学生との交流を図り、週末のField Tripでは、フィリピンの文化や歴史を身近に感じながら異文化理解を深める。</p> <p>(4) 学習定着度診断 毎週金曜日に授業時間の一部を使い、1週間の学習の定着度を測る Weekly Assessment が実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習内容の定着度を測る Summative Assessment が実施され、その結果は、後日発行される個人の Progress Report に反映される。</p> <p>【事後講義】(全1回×100分) 帰国後翌週の火曜日 4時限 15:20～17:00（予定）※最終的な日程は募集要項を確認すること。 「講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ（講義後担当教員に提出）」を基に、現地研修での学びを自己評価し、今後の目標を明確にするためのグループディスカッションを行う。</p>					

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 履修要件は特にないが、本プログラムは 渡航前に CEFR A2 (TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110) レベルの英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1 (TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150) レベルの学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するブレイスメントテストの結果に基づいて行われる。</p> <p>(2) 3月卒業予定の学部4年生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認められる）。</p> <p>(3) 英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Test をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。</p> <p>※TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p> <p>(4) プログラム参加費として約46万円（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要となる。（2018年度春季実施時概算金額）また、為替レートの変動等により、参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparations and Review)</p> <p>開講前後に事前・事後学習として、以下の日本語エッセイを作成し、提出すること。</p> <p>(1) 受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ (2) 講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ</p> <p>また、学習効率を最大化するため、渡航前に可能な限り英語能力の向上に努めること。具体的には、毎日15分英語を聴く、会話表現や定型フレーズの音読を習慣的に行う、スカイプ英会話等を利用し英語で「聴く・話す」ことに慣れておく、等の事前学習を強く勧める。</p> <p>加えて、フィリピン固有の文化や社会事象についても事前に学習し、異文化適応力を下支える現地社会に関する基礎知識を備えておくことが強く望まれる。</p> <p>※「フィリピン共和国 Republic of the Philippines」(外務省ホームページ) http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html</p> <p>帰国後も継続的に英語発信力を向上させるため、スカイプ英会話等を利用して英語で「話す」機会を確保することや、定期的に TOEIC® Speaking Test 等を受験することで自身のスキルを客観的に測定し、到達目標を修正し続けることを勧める。</p> <p>※TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>エンデラン大学が作成・配布するテキスト</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>特に指定しないが、明治大学が運営する「留学志望者対象英語プログラム」のうち、レベルや目的にあった講座の受講を勧める。</p> <p>※「留学志望者対象英語プログラム」(明治大学国際連携機構ホームページ) https://www.meiji.ac.jp/cip/study_abroad_english/index.html</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>プログラム受講前・受講後の日本語エッセイおよびエンデラン大学による評価による総合評価を行う。</p> <p>(1) 受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ (10%) ※事前講義日に担当教員まで提出 (2) エンデラン大学による評価 (80%) (3) 講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ (10%) ※事後講義日に担当教員まで提出</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>(1) プログラムに参加する学生は、初回および渡航前オリエンテーション（日程は後日通知）に参加すること。 (2) 現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。 (3) 現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座(英語) (ペンシルベニア大学 ELP)	1～4年	秋学期 集中	2単位	和泉	横川 綾子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>本講座は、海外トップユニバーシティで明治大学の協定校でもあるペンシルベニア大学 English Language Program から和泉キャンパスに講師を招聘し、英語圏への留学に対応できる英語能力を短期集中で養成するプログラムである。授業は110分×2コマ(午前1コマ・午後1コマ・セルフスタディ1時間)×4週間、1クラス12～16人の少人数制で行う。本プログラムは、日本にいながらにしてアカデミックな英語スキルの指導を、オールイングリッシュの環境で受けることのできる貴重な機会であり、「読む・書く」スキルを中心に据えながらも、「聴く・話す」スキルも統合的に向上させることを狙いとする。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>英語圏特有の講義スタイルに慣れ、アカデミックな環境で必要となる「聴く・読む・話す・書く」の英語4技能を統合的に身に付けることを、本講座の到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>【事前講義】(全1回×100分) 2020年1月11日(土) 2時限 10:50～12:30</p> <p>オールイングリッシュで行われる授業に対応するための心構えを会得し、クラスで行われるアクティビティの予行演習を行う。合わせて、事前学習として課されている「受講を希望する理由をテーマにした英文エッセイ(講義後担当教員に提出)」を基に、ディスカッションを英語で行う。</p> <p>【語学研修】開講日程: 2019年2月中旬～3月中旬(予定) ※最終的な日程は募集要項を確認すること。</p> <p>(1) Academic Reading & Writing (午前1コマ)</p> <p>ペンシルベニア大学が開発したオリジナル教材で、「読む・書く」スキルを中心に「聴く・話す」スキルも合わせた英語4技能を統合的に養成する。</p> <p>(2) Elective Courses (午後1コマ)</p> <p>以下の6講座から、明治大学が指定する2講座が開講される(2017年度・2018年度開講科目はAならびにC)。コンテンツを学びながら、同時に英語技能も向上させる。</p> <p>A: Communications and Social Media B: Innovation and Technology C: Leadership D: Marketing and Gamification E: Resiliency F: Sustainability</p> <p>※(1)、(2)ともリーディングおよびライティング課題、フィールドワーク、個人およびグループ単位でのプレゼンテーションが適宜課される。</p> <p>(3) Self-Study (授業後60分間)</p> <p>その日に課された課題や授業内容の復習・定着のための自習時間。</p> <p>【事後講義】(全1回×100分) 講座最終日 4時限 15:20～17:00</p> <p>事後学習として課されている「講座で習得した英語能力をテーマにした英文エッセイ(講義後担当教員に提出)」を基にしたプレゼンテーション(各自5分程度)と質疑応答を英語で行う。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 履修要件</p> <p>プログラム応募時までに、2017年12月以降取得した以下の英語能力試験スコアのいずれかを有していること。TOEFL iBT 74+, TOEFL ITP 535+, IELTS 6.0+, TOEIC 750+ のうちいずれか</p> <p>※上記スコアを有しないプログラム参加希望者は、別途ペンシルベニア大学が指定するオンラインテストを受験し、一定の基準を超えることが必要となる場合がある。</p> <p>※応募時に上記基準に達しない場合でも、2月中旬のプログラム開講時までに英語能力を基準値まで引き上げることを条件に、受講を認める場合がある。</p> <p>(2) 3月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking & Writing Tests や TOEFL iBT や IELTS をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを勧める。</p> <p>※TOEIC® Speaking & Writing Tests について (IIBC ホームページ) http://www.iibc-global.org/toEIC/test/sw/about.html</p>					

<p>※TOEFL iBT について (CIEE ホームページ) https://www.ciee.or.jp/toefl/</p> <p>※IELTS について (JSAF ホームページ) http://www.jsaf-ielts-japan.com/</p> <p>(4) プログラム参加費などの詳細は、決定次第、募集要項を公開するので適宜確認すること。大学による助成の有無も、別途案内する(参考:前年度プログラム受講料1,900ドル)。</p>
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review)</p> <p>開講前後に事前・事後学習として、以下の英文エッセイを作成し、提出すること。</p> <p>(1) 受講を希望する理由をテーマにした英文エッセイ</p> <p>(2) 講座で習得した英語能力をテーマにした英文エッセイ</p> <p>また、学習効率を最大化するため、開講前に可能な限り英語能力の向上に努めること。具体的には、毎日15分英語を聴く、英文記事を読む習慣をつける、会話表現や定型フレーズの音読を習慣的に行う、スカイプ英会話等を利用し英語で「聴く・話す」ことに慣れておく、等の事前学習を強く勧める。特に、英文アカデミック・ライティングの基礎知識を得ておくことは必須である(6参照)。</p> <p>講座修了後も継続的に英語技能を向上させるため、スカイプ英会話等を利用して英語で話す機会を確保することや、定期的に TOEIC® Speaking & Writing Tests 等を受験することで自身のスキルを客観的に測定し、自ら設定した到達目標を上方修正し続けることを勧める。</p> <p>※TOEIC® Speaking & Writing Tests について (IIBC ホームページ) http://www.iibc-global.org/toEIC/test/sw/about.html</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>ペンシルベニア大学が作成・配布するオリジナルテキスト</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>【Listening 練習用推奨ウェブサイト】</p> <p>- Ted-Ed https://ed.ted.com/lessons</p> <p>- Science Insider https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg</p> <p>- The Ellen Show https://www.youtube.com/user/TheEllenShow</p> <p>【Writing 練習用無料オンライン講座・ウェブサイト】</p> <p>- A Beginner's Guide to Writing in English for University Study (University of Reading) https://www.futurelearn.com/courses/english-for-study</p> <p>- Getting Started with Essay Writing (University of California, Irvine) https://www.coursera.org/learn/getting-started-with-essay-writing?specialization=academic-english</p> <p>- Cambridge English Write & Improve https://writeandimprove.com/ (Cambridge English)</p> <p>【英文アカデミック・ライティングの参考文献】</p> <p>『英語アカデミック・ライティングの基礎』 一橋大学英語科 編著 (研究社)</p> <p>『英語論文の書き方入門』 迫 桂, 徳永聡子 著 (慶応義塾大学出版会)</p> <p>『The Elements of Style』 William Strunk Jr. and E.B. White (A Pearson Education Company)</p> <p>『Concise Rules of APA Style』 (American Psychological Association)</p> <p>明治大学国際連携機構が運営する「留学志望者対象英語プログラム」のうち、レベルや目的に合った講座の事前受講を勧める。</p> <p>※「留学志望者対象英語プログラム」(明治大学国際連携機構ホームページ) https://www.meiji.ac.jp/cip/study_abroad_english/index.html</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>プログラム受講前・受講後の英文エッセイ、ペンシルベニア大学による評価による総合評価を行う。</p> <p>(1) 受講を希望する理由をテーマにした英文エッセイ (10%) ※事前講義日に担当教員まで提出</p> <p>(2) ペンシルベニア大学による評価 (80%)</p> <p>(3) 講座で習得した英語能力をテーマにした英文エッセイ (10%) ※事後講義日に担当教員まで提出</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>最少催行人数 (12名) に満たなかった場合には、プログラムを実施しないことがある。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（ドイツ語） （ウィーン大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	天木 勇樹
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、ウィーン大学（オーストリア）で実施されるドイツ語コースに4週間参加するプログラムである。研修初日のプレースメントテストの結果に応じて各学生のレベルに合ったクラスに参加することができる。午後は、ウィーンの街やその周辺地域を探索し、オーストリアの伝統文化を肌で感じながらドイツ語を身につけることができる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑なドイツ語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2019年7月23日(火) 18:00～19:40 和泉キャンパス 第一校舎002教室</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2019年8月3日(土)～9月1日(日) 30日間 予定</p> <p>授業は全てドイツ語で行われ、少人数での参加型授業であり、教員と学生の距離が近く、楽しくドイツ語を身につけることができる。午前中(9:15～12:00)の授業終了後、午後はウィーンの街やその周辺地域を自由に探索し、オーストリアの伝統文化を肌で感じながらドイツ語や現地の文化を学ぶことができる。また、語学力をさらに磨きたい学生は、ドイツ語会話、発音、合唱、ワルツなどの豊富なオプションクラス(有料)を受講することも可能となる。</p> <p>(3) 事後学習 2019年9月18日(水) 15:00～16:40 駿河台キャンパス アカデミーコモン 309B教室</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 20名(最少催行人数10名)</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 9月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約43万円程度(滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。</p>					

プログラムの詳細については、 https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。(オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。)</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『30秒でできる!ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修(IBCパブリッシング)</p> <p>『30秒でできる!ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修(IBCパブリッシング)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著(あさ出版)</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著(あさ出版)</p> <p>『信じる!伝える!実現する!』齋藤佳子 著(宝島社)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度(10%)</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート(10%)</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価(80%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>事前学習(1回)の他に、5～7月にかけて渡航前オリエンテーションを3回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（フランス語） （リヨン・カトリック大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	天木 勇樹
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、リヨン・カトリック大学（フランス）付属語学学校（ILCF）で開講される4週間のプログラムである。授業は少人数制で行われ、フランス語の読み書きばかりではなく、実践的な会話も十分に実践できる。ILCF主催の課外活動では、授業の一環として行われる地域文化研修であり、この地域の文化を理解するとともに、他国からの学生と交流を図りながらフランス語を磨くことができる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑なフランス語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2019年7月23日(火) 18:00～19:40 和泉キャンパス 第一校舎002教室</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2019年8月3日(土)～9月1日(日) 30日間 予定</p> <p>授業はA1(入門)、A2(初級)、B1(中級1)、B2(中級2)、C1(上級1)、C2(上級2)の6段階にクラスが分かれており、各学生のレベルに合わせて参加する。授業時間は週20時間、午前9時～12時、午後14時～16時である。(授業時間はレベルにより異なる。)</p> <p>(3) 事後学習 2019年9月18日(水) 15:00～16:40 駿河台キャンパス アカデミーコモン309B教室</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 15名(最少催行人数10名)</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 9月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約49万円程度(滞在費、航空運賃、現地交通費を含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.htmlを必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容(Preparation and Review)</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書(Textbook)</p> <p>特に定めない。(オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。)</p>
<p>6 参考書(Reference)</p> <p>『30秒でできる!ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修(IBCパブリッシング)</p> <p>『30秒でできる!ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修(IBCパブリッシング)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著(あさ出版)</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著(あさ出版)</p> <p>『信じる!伝える!実現する!』齋藤佳子 著(宝島社)</p>
<p>7 成績評価の方法(Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度(10%) ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート(10%)</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価(80%)</p>
<p>8 その他(Other)</p> <p>事前学習(1回)の他に、渡航前オリエンテーションを2回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（スペイン語） （バルセロナ自治大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、バルセロナ自治大学（スペイン）の語学研修機関 UAB Idiomes Barcelona にて実施される4週間の集中スペイン語コースである。UAB のスペイン語クラスは、短期間で効率的かつ実践的にスペイン語を習得するコースとなる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中で生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑なスペイン語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2020年1月21日(火) 18:00～19:40 和泉キャンパス</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2020年2月上旬～3月上旬(予定) ※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>授業時間は、月曜日から金曜日までの午前9時から午後1時30分の4時間であり、週20時間となる。少人数制のクラスであり、9段階のレベルにクラスが分かれ、各学生のレベルに合ったクラスでスペイン語を学ぶ。中級以上のレベルの受講者は、午後の授業と併せて、スペイン文化や経済等に関する授業を受講することができる。</p> <p>(3) 事後学習 2020年3月26日(木) 13:00～14:40 駿河台キャンパス</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 20名(最少催行人数10名)</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約40万円程度(滞在費、航空運賃、現地交通費を含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容(Preparation and Review)</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。(オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。)</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『30秒でできる!ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBCパブリッシング)</p> <p>『30秒でできる!ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBCパブリッシング)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版)</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版)</p> <p>『信じる!伝える!実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度 (10%) ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート (10%)</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価 (80%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>事前学習 (1回) の他に、渡航前オリエンテーションを3回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修講座（中国語） （北京大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>《概要（Course Summary）》</p> <p>本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。</p> <p>当研修は、北京大学（中国）にて、中国語運用能力の向上と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的としたプログラムである。中国語のブラッシュアップを図るとともに、語学以外に名所旧跡へのフィールドトリップや現地学生との交流など、中国文化に対する理解をさらに深めることができる。</p> <p>事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な中国語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 2020年1月21日(火) 18:00～19:40 和泉キャンパス</p> <p>海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。</p> <p>(2) 現地研修 2020年2月下旬～3月下旬(予定) ※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>各レベルにクラスが分かれ、授業は午前8時から12時までであり、「口語」「漢語」を中心に学ぶことができる。課外活動では、留学生生交歓会が設定され、その他、中国に関する文化講座（「日中漢字の異同」（日本語）、「中国古代美術」（英語）予定）や万里の長城・盧溝橋等へのフィールドトリップなどに参加する。</p> <p>(3) 事後学習 2020年3月26日(木) 13:00～14:40 駿河台キャンパス</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 20名（最少催行人数10名）</p> <p>(2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部4年生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約36万円程度（滞在費、航空運賃などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.htmlを必ず確認すること。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）</p>
<p>7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 期末レポート（10%）</p> <p>(3) 派遣先教育機関における評価（80%）</p>
<p>8 その他（Other）</p> <p>事前学習（1回）の他に、渡航前オリエンテーションを2回実施予定。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (アメリカ・インターンシップ)	1～4年	夏期集中	1単位	その他	天木 勇樹

1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

《概要 (Course Summary)》

海外で働く日本人企業人によるビジネス研修を受講した後に、海外の日系企業及び日系団体において、約3週間のインターンシップに従事する、合計26日間の実習プログラムとなる。

2019年度については、ビジネス研修(ロサンゼルスで活躍する日本人企業人による講演会、キャリアディスカッション、パネルディスカッション)を受講した後に、ロサンゼルスの日系企業での企業実習により、ビジネスの最前線で幅広い体験を積むことを目指す。

なお、業務上使用する言語は基本的に日本語であるが、E-mailや電話対応等では英語を使用する場合がある。

《到達目標 (Course Objectives)》

海外実務研修を通じ、就労の意義及び海外生活の実状を知ることにより、グローバル人材として活躍するために身に付けるべき知識や能力に気付くきっかけとする。更に、その後の学習の方向性を見定め、意欲を高めることに繋げる。

2 授業内容 (Course Contents)

(1) 事前学習 (全2回)

第1回目 2019年7月22日(月) 18:00～19:40 駿河台キャンパス リバティタワー1084教室

第2回目 2019年8月1日(木) 10:00～11:40 駿河台キャンパス グローバルフロント4021教室

海外実務研修のための準備や、ホームステイに対する心構え、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。

また、Project-Based Learning (PBL)学習(問題解決型学習)として、学生は以下の課題から1つ選択し、現地調査の結果を事後学習で報告する。課題の詳細は、事前学習で説明する。

課題1: カリフォルニア州の経済問題

課題2: カリフォルニア州の移民問題

(2) 現地実習 2019年8月7日(水)～9月1日(日) 予定

ビジネス研修 (4日間)	米国ロサンゼルスで活躍する日本人企業人による講演会を通じて、「グローバルキャリア」について考える。また、アメリカ人学生や日本人留学生とキャリアや価値観についてディスカッションを行う「学生フォーラム」を実施する。
企業実習 (14日間)	ロサンゼルスにある約70社の日系企業のうちのいずれかで企業実習を受ける。業務内容は、事務所内での電話対応、社員との同行によるお客様訪問など、ビジネスの前線での幅広い体験を積む。

(3) 事後学習 2019年9月18日(水) 10:00～11:40 駿河台キャンパス アカデミーコモン309G教室

本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。

3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

(1) 定員

20名(最少催行人数10名)

※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。

(2) 履修要件

TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3)以上に相当する英語力を有することを履修条件とする。

9月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認められる)。

(3) 費用

プログラム参加費として約62万円程度(滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。

プログラムの詳細については、<https://www.meiji.ac.jp/cip/kaigaijisshu/index.html>を必ず確認すること。

4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review)

事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先(ロサンゼルス)について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。

5 教科書 (Textbook)

特に定めない。

6 参考書 (Reference)

『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ)

『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社)

『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジンス)

『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版)

『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)

『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)

7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

以下の諸点により、最終評価する。

(1) 事前学習及び事後学習における貢献度: 20%

※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。

(2) 勤務報告書: 20%

(3) 研修先における勤務評価: 30%

(4) 帰国後に提出する最終レポート: 30%

8 その他 (Other)

インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。英語力、志望動機等を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。

また、プログラム参加までに語学力を向上させるために、学部間共通外国語の履修や「実践的英語力強化プログラム」へ参加することを推奨する。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (ベトナム・インターンシップ)	1～4年	夏期集中	1単位	その他	天木 勇樹
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>海外協力大学での学生交流の後に、海外の日系企業及び日系団体において、約4週間のインターンシップに従事する、合計4週間の実習プログラムとなる。2019年度については、ベトナム商業大学における学生交流による両国間のキャリア観についての学習を行った後に、ハノイの日系企業や団体から受入先を選び、ビジネスの最前線で幅広い体験を積むことを目指す。業務上使用する言語は基本的に日本語であるが、E-mail や電話対応等では英語を使用する場合がある。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>就労の意義及び海外生活の実状を知ることにより、グローバル人材として活躍するために身に付けるべき知識や能力に気付くことを主たる目標とする。</p>					
2 授業内容 (Course Contents)					
(1) 事前学習 (全2回)					
第1回目 2019年7月22日(月) 18:00～19:40 駿河台キャンパス リバティタワー1084教室					
第2回目 2019年8月5日(月) 10:00～11:40 駿河台キャンパス グローバルフロント4021教室					
海外実務研修のための準備や、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。					
(2) 現地実習 2019年8月17日(土)～9月15日(日) 予定					
ア 海外協力大学での特別講義 (1日間)					
ベトナム商業大学における学生交流による両国間のキャリア観についての学習を行う。					
イ 企業実習					
ハノイ市内の現地企業・団体で約4週間にわたり企業実習を受ける。					
(3) 事後学習 2019年9月18日(水) 10:00～11:40 アカデミーコモン309G教室					
本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)					
(1) 定員					
20名 (最少催行人数10名)					
※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは0h-o! Meiji システムで通知する)。					
(2) 履修要件					
TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3)以上に相当する英語力を有することを履修条件とする。					
9月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。					
(3) 費用					
プログラム参加費として約35万円程度(滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。					
プログラムの詳細については、 https://www.meiji.ac.jp/cip/kaigaijisshu/index.html を必ず確認すること。					

4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review)
事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先(ハノイ)について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書 (Textbook)
特に定めない。
6 参考書 (Reference)
『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著(角川マガジンス)
『自分を動かし続ける力～元ヤンだった僕がカリフォルニア大学バークレー校で身につけた「最大限に成長する」習慣』鈴木琢也 著(大和書房)
『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)
『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)
『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)
以下の諸点により、最終評価する。
(1) 事前学習及び事後学習における貢献度: 20%
※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。
(2) 勤務報告書: 25%
(3) 研修先における勤務評価: 25%
(4) 帰国後に提出する最終レポート: 30%
8 その他 (Other)
インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。志望動機等を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (ベトナム・インターンシップ)	1～4年	秋学期 集中	1単位	その他	水倉 亮
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>《概要 (Course Summary) 》</p> <p>海外協力大学での学生交流の後に、海外の日系企業及び日系団体において、約4週間のインターンシップに従事する、合計4週間の実習プログラムとなる。2019年度については、ホーチミン工科大学（予定）における学生交流による両国間のキャリア観についての学習を行った後に、ホーチミンの日系企業や団体から受入先を選び、ビジネスの最前線で幅広い体験を積むことを目指す。業務上使用する言語は基本的に日本語であるが、E-mail や電話対応等では英語を使用する場合がある。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives) 》</p> <p>就労の意義及び海外生活の実状を知ることにより、グローバル人材として活躍するために身に付けるべき知識や能力に気付くことを主たる目標とする。</p>					
2 授業内容 (Course Contents)					
<p>(1) 事前学習 (全2回×100分) 2020年2月5日(水) 13:30～17:00</p> <p>海外実務研修のための準備や、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。</p> <p>(2) 現地実習 2020年2月15日(土)～3月15日(日) 予定 ※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>ア 海外協力大学での特別講義 (1日間)</p> <p>ホーチミン技術師範大学(予定)における学生交流による両国間のキャリア観についての学習を行う。</p> <p>イ 企業実習</p> <p>ホーチミン市内の現地企業・団体で約4週間にわたり企業実習を受ける。</p> <p>(3) 事後学習 2020年3月17日(火) 10:00～11:40</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。</p>					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)					
<p>(1) 定員</p> <p>20名 (最少催行人数10名)</p> <p>※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修条件とする。</p> <p>3月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認めらる)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>プログラム参加費として約35万円程度(滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。</p> <p>プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/kaigaijisshu/index.htmlを必ず確認すること。</p>					

4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)
事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先(ホーチミン)について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書 (Textbook)
特に定めない。
6 参考書 (Reference)
『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著(角川マガジンス)
『自分を動かし続ける力～元ヤンだった僕がカリフォルニア大学バークレー校で身につけた「最大限に成長する」習慣』鈴木琢也 著(大和書房)
『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)
『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)
『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)
以下の諸点により、最終評価する。
(1) 事前学習及び事後学習における貢献度: 20%
※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。
(2) 勤務報告書: 25%
(3) 研修先における勤務評価: 25%
(4) 帰国後に提出する最終レポート: 30%
8 その他 (Other)
インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。志望動機等を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (Exploring Social Innovation)	1～4年	秋学期 集中	1単位	その他	水倉 亮
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>≪概要 (Course Summary) ≫</p> <p>本講座は、米国スタンフォード大学内にある米国 NPO 法人 VIA (Volunteers in Asia) が提供する社会イノベーションをテーマとしたプログラムである。VIA はアジアとアメリカを繋ぐことを目的とした多彩な体験型教育プログラムを運営する 1963 年に設立された非営利団体である。</p> <p>本研修では、スタンフォード大学デザインスクール (d. school) が提唱するデザイン思考を体系的に学ぶワークショップを始め、サンフランシスコ近郊の民間企業 (YouTube) や NPO 団体 (BAYCAT、Delancey Street Foundation 等) への視察訪問等が予定されている。</p> <p>※プログラム内容や訪問先は実施時期により一部変更となる可能性があります。</p> <p>※VIA について : https://viaprograms.org/</p> <p>≪到達目標 (Course Objectives) ≫</p> <p>デザイン思考を学び、様々な社会的企業の役割や活動を理解することで、より良い社会を築き、社会問題の解決に導くための実践的方法論を体得することを目指す。更に、その後の学習やキャリアの方向性を見定め、他者貢献力や自己成長への意欲を高めることに繋げる。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 (全 2 回)</p> <p>第 1 回目 2020 年 1 月 14 日 (火) 18:00～19:40</p> <p>第 2 回目 2020 年 1 月 16 日 (木) 18:00～19:40</p> <p>海外実務研修のための準備や、アメリカや日本における社会問題の調査、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。また、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。</p> <p>※別途、VIA が定めるオリエンテーション (Skype) への参加や事前課題の実施が求められます。</p> <p>(2) 現地研修 2020 年 2 月上旬～2 月中旬 (予定) ※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>現地での研修はサンフランシスコ市内にて実施され、全体の学修活動時間は約 64 時間 (約 2 週間) である。スタンフォード大学 d. school が提唱するデザイン思考、社会問題を解決するための実践的方法論を学ぶためのワークショップ、サンフランシスコ近郊の民間企業や NPO 団体への視察訪問等が含まれる。</p> <p>(3) 事後学習 2020 年 2 月 20 日 (木) 10:00～11:40</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員</p> <p>5 名 (最少催行人数 1 名)</p> <p>※授業希望者が定員を超える場合には、申込み時に提出する参加理由書により選考 (選考結果は Oh-o! Meiji システムで通知する。)</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP 含む) 400 点 (TOEFL iBT41 点、TOEFL ITP435 点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準 2 級、本学における前年度英語科目の成績評価係数 2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修条件とする。</p> <p>3 月卒業予定の学部 4 年生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>プログラム参加費として約 53 万円程度 (滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む) の負担が必要。為替レ</p>					

<p>ートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。</p> <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プログラムは、少人数でのグループ発表や参加者間での意見交換が多く発生するため、プログラム参加に対する強い熱意と意欲、そして主体的に参加することが求められる。 本プログラムへの参加は本学での申込み後、現地プログラムディレクターによる電話インタビュー (Skype 面談) によって、最終的な参加可否が決定される。 <p>プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/kaigai_jisshu/index.html を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SB クリエイティブ)</p> <p>『発想する社会！ー世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法ー』トム・ケリー 著 (早川書房)</p> <p>『なぜデザインが必要なのかー世界を変えるイノベーションの最前線ー』エレン・ラプトン 著 (英治出版)</p> <p>『若者が社会を動かすために』税所篤快 著 (ベストセラーズ)</p> <p>『Creative confidence: Unleashing the creative potential within us all』Kelley, T., & Kelley, D. 著 (Crown Business, 2013)</p> <p>Tim Brown. (n. d.). from https://www.ted.com/speakers/tim_brown (TED Talk)</p> <p>『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で！日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p> <p>『日本のことを 1 分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度 : 20%</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 研修先 (VIA) による評価 : 70%</p> <p>(3) 帰国後に提出する最終レポート : 10%</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>(1) 本プログラムは、社会問題の解決に興味のある学生、社会起業家を目指す学生、デザイン思考に興味のある学生、新しい視点を学びたい学生、国連ユースボランティア等の長期海外インターンシップへの参加を目指す学生、長期留学参加後の学びを深めたい学生などを履修対象とする。</p> <p>(2) 現地研修では、日本、韓国、中国、台湾、インドネシア、タイ、ベトナム等のアジアから優秀な学生が毎年参加している。研修期間中の宿舎は、VIA が指定するサンフランシスコ市内のホテルでの滞在となる。</p> <p>(3) 本プログラム参加までに語学力を向上させるために、学部間共通外国語の履修や「実践的英語力強化プログラム」へ参加することを推奨する。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (オーストラリア・インターンシップ)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	天木 勇樹
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>海外の大学での特別講座を受講した後に、海外の現地企業及び団体において、約4週間のインターンシップに従事する。</p> <p>2019年度については、本学協定校であるシドニー工科大学（豪州・シドニー）で特別講義（ビジネス英語）を受講する他、現地の学生と交流した後に、シドニー市内の受入企業・団体で約4週間にわたる企業実習を行う。なお、現地企業・団体で企業実習のため、業務上使用する言語は原則として英語となる。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>海外でのインターンシップを通じて、「異文化に対する洞察力」、「実践的な専門知識」、「語学力」、「能動的コミュニケーション能力」といった素養を養うことを目的とし、グローバル人材として世界で活躍する人材の育成を目指す。また、4週間の企業実習を通じ、日本社会とは異なる人間関係の中に身を置くことにより、様々なバックグラウンドを持つ人々の文化と価値観の多様性を受け入れることの重要性を認識する。</p> <p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 (全3回)</p> <p>第1回目 2019年7月22日(月) 18:00～19:40 駿河台キャンパス リバティタワー1084教室</p> <p>第2回目 2019年8月1日(木) 13:00～14:40 駿河台キャンパス グローバルフロント4021教室</p> <p>第3回目 2019年8月1日(木) 14:50～16:30 駿河台キャンパス グローバルフロント4021教室</p> <p>海外実務研修のための準備や、ホームステイに対する心構え、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。ビジネス英語表現対策などを受講する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。</p> <p>また、Project-Based Learning (PBL)学習（問題解決型学習）として、学生は以下の課題から1つ選択し、現地調査の結果を事後学習で報告する。課題の詳細は、事前学習で説明する。</p> <p>課題1：オーストラリアの環境問題</p> <p>課題2：オーストラリアの移民問題</p> <p>(2) 現地実習 2019年8月3日(土)～9月1日(日) 予定 ※最終的な日程等は募集要項を確認すること。</p> <p>ア 海外協定校での特別講義 (1日間)</p> <p>シドニー工科大学（豪州・シドニー）の協力により実施される特別講義（ビジネス英語）を受講し、現地の学生にとの交流を行い、各自のキャリア意識を醸成する。</p> <p>イ 企業実習</p> <p>シドニー市内の現地企業・団体（一般企業、観光関連、ホテル業、幼児教育、日本語教師アシスタント、福祉施設等）で約4週間にわたり企業実習を受ける。実習先での業務内容は個人の英語力・スキルにより判断し決定される。</p> <p>(3) 事後学習 2019年9月18日(水) 13:00～14:40 駿河台キャンパス アカデミーコモン309G教室</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを担当教員に提出し、最終プレゼンテーションを行う。</p> <p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員</p> <p>20名（最少催行人数6名）予定</p>					

<p>※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する（選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する）。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP含む) 600点 (TOEFL iBT62点、TOEFL ITP503点、IELTS5.5、実用英語技能検定試験2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修条件とする。</p> <p>9月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>プログラム参加費(滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む)は、約57万円である。参加人数や為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。</p> <p>プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/kaigaijisshu/index.htmlを必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review)</p> <p>事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ)</p> <p>『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著 (宝島社)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない！』吉田ちか 著 (角川マガジズ)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版)</p> <p>『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で！日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20%</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 勤務報告書：20%</p> <p>(3) 実務研修先における勤務評価：30%</p> <p>(4) 帰国後に提出する最終レポート：30%</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。インターンシップ申込書をもとに、現地の受入れ先の事情や条件、個々の英語力、経験、資格、履修経験を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。</p> <p>また、プログラム参加までに語学力を向上させるために、学部間共通外国語の履修や「実践的英語力強化プログラム」へ参加することを推奨する。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
長期海外実習 (国連ユースボランティア・プログラム)	2～4年	秋学期	8単位	その他	天木 勇樹
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>本講座は、海外実務研修を体験する「短期海外実習」、「海外実習」の継続・発展型として実施される、海外でのより長期の実践的学習(実務実習)を行う講座であり、学生は、世界の平和と開発を支援するための国際機関である「国連ボランティア計画 (The United Nations Volunteers)」を通じて、開発途上国における同機関事務所実務実習を行う。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>この経験を通じ、グローバル人材に必要な国際社会や異文化に関する知識に加え、様々なバックグラウンドを持つ人々と対等に意見を交換し、人間関係を構築することができるチームワーク志向性等の国際感覚を培うことができる。</p> <p>なお、本講座の学習効果を高めるために、派遣前研修や派遣期間中の実務教育を行う「海外実習課題研究」を同時に履修することを履修条件とする。</p> <p>異文化に対する洞察力、実践的な専門知識、語学・能動的コミュニケーション能力といった素養を養うことを目的とし、海外での実践的学習(実務実習)への参加を通じてグローバル人材として世界で活躍する人材の育成を目指す。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>開発途上国における同機関事務所約5ヵ月間にわたりインターンシップ実習を行う。</p> <p>具体的には、現地の国連開発計画 (UNDP)、国連ボランティア計画 (UNV)、国連広報センター (UNIC) 等が実習先となる。1日の勤務時間は、週5日の約6時間程度(週30時間程度)。現地での滞在先は、国連ボランティア計画の各現地オフィスが指定する民間アパートである。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 受講定員</p> <p>特に定めない。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>書類選考及び面接選考の上、学内推薦候補を決定する。</p> <p>学内推薦候補者は、希望する国際機関の現地事務所担当者や電話インタビューの上、派遣が決定する。なお、応募のために以下の要件を満たす必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● TOEFL ITP500点 (TOEFL iBT60点、TOEIC 585点、IELTS 4.5) 以上に相当する英語力を有すること。 ● 開発途上国へ2週間以上の渡航経験(旅行、ボランティア活動等)を持つことが望ましい。 ● 国内外でのボランティア経験があることが望ましい。 ● 最低限のICTスキル (Word/Excel/Power Point) を有することが望ましい。 ● 円滑に共同作業ができること。 ● 日本国籍を有する者。 <p>なお、「海外実習課題研究(国連ユースボランティア・プログラム)」との同時履修となる。</p> <p>(3) 費用</p> <p>渡航費や現地生活費等を含む参加費用は、外務省及び国連ボランティア計画が負担するため、免除となる。</p>					

<p>(4) 派遣日程</p> <p>2019年9月中旬～2020年2月(渡航日及び帰国日は、派遣国により異なる。)</p> <p>プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/chouki_kaigaijisshu/index.htmlを必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review)</p> <p>事前に配布する英語の報告書やレポートの書き方(英語表現・構成)の資料を熟読し理解すること。配布資料をもとに、毎週提出を義務付けている勤務報告書を作成する。担当教員によるフィードバックを参考にし、英語表現や構成を振り返り、次週の勤務報告書の作成に活かすこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 勤務報告書 (Weekly Report) の評価：30%</p> <p>(2) 中間レポートの評価：20%</p> <p>(3) 帰国後の最終報告書及びプレゼンテーション：50%</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>派遣国については、治安が比較的良く政情も安定しており、国連職員が単身赴任ではなく家族と共に転勤が可能な地域と指定している。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習課題研究 (国連ユースボランティア・プログラム)	2～4年	秋学期	4単位	その他	天木 勇樹
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>日本と全く異なる社会で就業体験をすることに伴い、「長期海外実習」派遣前の実務教育に特化した課題研究科目を履修することにより、海外での長期の実務実習をより効果的なものとするのが期待できる。</p> <p>本講座は、国連ユースボランティア・プログラムの派遣前に、約10日間の補強研修及び渡航前研修を実施し、同プログラム期間中に必要となる画像・動画編集、英文議事録の書き方等のスキルを養成すると同時に、国際開発論、教育開発論などの講義を通じて現場の状況を把握し柔軟な対応ができる即戦力を育成する。</p> <p>なお、本講座の学習効果を高めるために、本課題研究の内容に沿った海外での長期の実務実習を行う「長期海外実習」を同時に履修することを履修条件とする。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>多様な価値観を持った人々との人間関係及びチームワーク構築の重要性や自己の職業観を認識し、日本国内に留まらず、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成を目指す。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 (全2回)</p> <p>第1回目 (2019年7月中旬実施) は、海外での長期の実務実習に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解する。</p> <p>第2回目 (2019年9月上旬実施) は、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。また、補強研修及び派遣前研修で習得したことについて振り返り、発表する。</p> <p>(2) 課題研究</p> <p>「長期海外実習」派遣前に、関西学院大学国連ユースボランティア派遣日本訓練センターが主催する渡航前国内研修 (関東会場および関西会場) において約10日間の補強研修及び派遣前研修の講座を受講する。</p> <p>(3) 事後学習－課題研究のまとめ (派遣学生全員が帰国後の2020年3月に実施)</p> <p>本講座の最終総括を行う。課題研究で学んだことをレポートにまとめ、報告する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 受講定員</p> <p>特に定めない。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>「長期海外実習」において実施する長期の海外実習プログラムへの派遣・参加が決定した学生を対象とするため、応募要件や語学レベル等については、「長期海外実習」における基準に準拠する。</p> <p>なお、「長期海外実習 (国連ユースボランティア・プログラム)」との同時履修となる。</p> <p>(3) 費用</p> <p>補強研修・派遣前研修費として、5万円程度の負担が必要。また、関西学院大学国連ユースボランティア派遣日本訓練センターへの交通費及び宿泊費等の実費、及び予防接種費の実費 (派遣国により異なる) が別途必要。</p>					

<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)</p> <p>事前に配布する「2019年度派遣の手引き (明治大学)」を読み、不明な部分があれば、授業で質問すること。事前学習及び課題研究の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読むこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>関西学院大学国連ユースボランティア派遣日本訓練センター指定の教科書となる。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著 (新潮社)</p> <p>『パリの国連で夢を食う。』川内有緒 著 (イースト・プレス)</p> <p>『えんぴつの約束ー一流コンサルタントだったぼくが、世界に200の学校を建てたわけ』アダム・ブラウン 著 (飛鳥新社)</p> <p>『世界で生きるカー自分を本当にグローバル化する4つのステップー』マーク・ガーゾン 著 (英治出版)</p> <p>『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、本学担当教員が最終評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度: 20%</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 最終レポートによる評価: 80%</p>
<p>8 その他 (Other)</p>